

※達成状況の評価は4段階評価で記載

◎：計画を着実に実施し、想定以上の成果が得られた

○：計画を概ね実施した

△：計画をやや達成できなかった

×：計画を全く実施できなかった

富山高等専門学校 第3期中期計画・平成28年度年度計画実施状況

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

【中期計画】

- ・志願者対策室、広報戦略室において、本校を広く理解してもらうために、中学校との信頼関係を構築し、連携を深める。
- ・マスコミやホームページを通じ、広く社会に向けて富山高等専門学校の教育研究活動についてPRを行う。
- ・英語版ホームページを開設して、全世界に向けた情報発信を行う。

【年度計画】

- ・**中学校校長、進路指導教員を高専に招き、本校における教育・研究の実状を見ていただき、その良さをPRする。同時に、中学校側の本校への要望を聞く機会を設ける。**

中学校進路指導担当教員を本郷・射水各キャンパス（6月30日、7月1日）に、富山市中学校長会役員を本郷キャンパス（11月15日）に招き、概要説明や見学会、意見交換等を行った。その結果、入試制度の変更や優れた教育・研究環境等について理解を深めていただくと同時に、中学校側から本校への率直な要望やアドバイスをいただく良い機会となり、高専と中学校との良好な信頼関係や連携強化が再確認された。

- ・**在校生の保護者に対して、学校行事の報告、保護者からの要望を聞き、それを教育の改善に繋げる。以上の対策・努力を通じて、父兄の本高専への信頼と評価を高める。**

学生・保護者等に対して、本校の広報誌「高専通信」を年3回作成、配付することによって、本校行事の連絡や、結果の報告を行っている。また、同通信には、学生や保護者に向けた、校長はじめ、学生主事、寮務主事等による、教育指針や運営に関わるメッセージを、随時掲載している。

授業参観時に保護者懇談会を併せて行い、校長、主事、学科長、クラス担任等教員が本校の教育について説明を行うとともに、保護者からの要望や意見を聞いた。これらの要望や意見を学校運営へ反映することとしている。平成27年度から、基礎学力が不足している学生に対して、数学、物理等の補講授業を実施している。

本年度から、ホームページの新着情報を保護者に通知するため、保護者向け情報発信サービスを開始した。これにより、配信時にはHPの閲覧数が増加した。

計画の達成状況の

自己評価

次年度の計画

◎

継続

○

継続

・ **志願者対策室と広報戦略室が共同で、県内中学校を2回以上訪問する。また、PRのための資料等を作成・配布する。**

県内の各中学校に、本校志願者対策室と広報戦略室が共同で作成したカレッジガイド、並びにカレッジリーフレット（夏季版、並びに秋季版）を配布し、中学生及び進路指導教諭等に、高専の魅力や特徴をよりわかり易く具体的に紹介した。また、入試の概要、特に平成29年度入試について、併願制から専願制への変更に関する説明を行った。

志願者対策として、富山県内の中学校（81校）へ、年2回訪問した（1回目：6月中旬～8月上旬、2回目：10月中旬～12月上旬）。また、県外中学校についても、石川県及び岐阜県北部の中学校（計 約100校）を対象として同様の取り組みを行った。今年度は新たに新潟県南部の中学校への訪問も行った。なお、訪問にあたっては、教員が単独、または各キャンパス1名ずつの2名で、入試方法・学科の特徴・卒業後の進路などについて詳細な説明を行い、本校のPRに努めた。



修正

・ **公式Webサイトの充実を図り、中学生にとって有益となる情報を積極的に掲載する。**

オープンキャンパス、公開講座、進学個別相談会等の開催情報のほか、入試に関する情報や学生生活に関する情報等、中学生にとって有益な情報の発信に努めた。
有益となる課外活動情報を更新した。



修正

・ **公式Webサイトの充実を図るため、アクセス状況等を調査し、効果的な情報発信を行う。**

広報戦略室において、アクセス状況を調査・解析し、アクセス数を伸ばす方策について検討した。また、トピックス等を通して、継続的に新たな情報発信を行うため、情報収集の方策を学内で検討した。



継続

・ **ニュースリリースなどによりマスコミを通じて本校の活動を積極的にPRする。**

国際交流、公開講座、出前授業、高専祭その他の企画、教職員の活動状況等々について、テレビ、新聞、文教速報等で取り上げてもらうよう積極的にプレスリリースを行い、本校のPRに努めた。

（本年度は学校（教職員・学生を含む）の紹介関係：39件、教育関係：11件、研究関係22件、課外活動関係155件等、約255件の記事が新聞、テレビ等に掲載された。）



継続

・ **海外へ効果的な情報発信を行うため、英語版のホームページや広報物の見直しを行う。**

広報戦略室会議において、現行の英語版ホームページの更新を含め、ホームページの効果的な活用方法について検討した。また、海外からの教員の招聘に際しては、英語版の学校要覧を渡し、積極的に活用した。



継続

【中期計画】

- ・ 入学説明会，体験入学，オープンキャンパス，公開講座，出前授業等，両キャンパスで行った取り組みを整理して，その成果を調査し，必要な改善を図る。
- ・ 学校独自で行った事業についてホームページなどで意見収集を行う。
- ・ 高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集し，女子中学生向けのパンフレットを作成する。

【年度計画】

- ・ 在校生の父兄，地域住民，中学生を様々な機会を設けて高専に招き，在校生，卒業生の活躍状況を PR する。

保護者懇談会，並びに運営諮問会議などにおいて，卒業生の活躍状況を PR した。高専祭（北斗祭）において，進路相談コーナーを設け，訪れた中学生・保護者への進学相談を行った。また，高専祭に訪れた地域住民を対象に，本校紹介コーナーを設け，本校の案内や進路説明など広く本校の PR を行った。



継続

- ・ 入学説明会，学校見学会，公開講座，出前授業等の事業を積極的に展開し，効果的な PR のあり方や成果について検討する。

学校説明会（7 月 17 日，24 日，31 日，3 会場：参加者 223 人），夏季オープンキャンパス（8 月上旬：参加者 833 人），秋季オープンキャンパス（11 月：参加者 260 人），学生募集説明会（10 月：参加校 81 校），並びに進学個別相談会（12 月 3 日，10 日 参加者 219 人）を積極的に開催し，本校の PR に努めた。夏季オープンキャンパスへの参加者は昨年より若干減ったものの，秋季オープンキャンパスへの参加者は昨年とほぼ同程度であった。その他，高専祭において学科展示等により各学科の紹介を行った。これらの実績を検証し，より効果的な PR のあり方を検討することとしている。



継続

- ・ 女子学生の活動の様子や女子卒業生の活躍をホームページ上で紹介し，女子中学生を対象とした広報活動を行う。

平成 25 年度から始めた女子中学生の志願者確保に向けた取り組みとして，昨年度作成した冊子「高専女子百科 Jr.（富山高専版）」を，内容の充実や効果的な使用方法の観点からリニューアルし，県内外の中学校へ配布した。また，同冊子を，ホームページ上に掲載することによって広報に務めた。さらに，各中学校で開催される高校説明会において，本校の女子学生比率を紹介し，女子学生の積極的な受検を促した。



削除

【中期計画】

- ・カレッジガイドをはじめとするパンフレットの配布箇所や利活用内容について学内で調査を行い、有効に活用する方法について検討を行う。
- ・広報戦略室および志願者対策室が中心となって、志願者対策上有効な広報資料を整理して、必要な資料を作成する。

【年度計画】

- ・学校を紹介するカレッジガイド(志願者用)や学校要覧の更新を行うと同時に、効果的に配布して利活用に努める。

教員が中学校の進路指導教諭等を訪問する際、志願者対策室と広報戦略室が共同で作成した平成 28 年度学校要覧, カレッジガイド, 並びにカレッジリーフレット等を持参し, 本校の特徴や高専の魅力などについて説明を行った。特に, カレッジリーフレット（秋版）では, イベント開催等のキャッチ力の向上を図った。



継続

- ・広報・志願者対策本部会議において戦略的広報活動及び志願者対策等を検討し、これに基づき、志願者対策室と広報戦略室が共同で、志願者対策上必要な資料を計画的に企画・作成してより効果的な志願者対策に努める。

広報・志願者対策本部会議において、戦略的広報活動及び志願者対策の企画等を検討した。また、志願者対策上必要な、カレッジガイド、並びにカレッジリーフレット（夏季・秋季）、並びに志願者対策用クリヤーホルダー等を作成することによって、より効果的な志願者対策に努めた。



継続

- ・昨年度制作した志願者対策用の動画コンテンツの効果的な活用を図る。

学校紹介動画コンテンツのアクセス分析等を行い、効果的な活用について検討した。中学校の先生や生徒、保護者に動画コンテンツを積極的に紹介した。説明会、オープンキャンパス等で紹介し、自宅等での視聴も促した。



修正

- ・これまでの広報の手段を検証し、新たな広報戦略を企画する。

ホームページの新着情報を保護者に通知するため、携帯電話を利用した保護者向け情報発信サービスを開始した。



継続

【中期計画】

- ・ 中学校や地域社会の意見を幅広く収集して、十分な資質を持った入学者を確保できるようにする。

【年度計画】

- ・ 中学校校長、進路指導教員を高専に招き、本校における教育・研究の状況を PR するとともに、中学校サイドからの本校への要望を聞く機会を設ける。

中学校校長や進路指導担当教員を高専に招き、本校の教育・研究の状況、並びに卒業生の活躍状況を PR した。懇談の中で、中学校側から本校への率直な要望やアドバイスを聞くことができた。これら課題の解決に向けて意見交換を行った。



継続

- ・ 機構本部と連携し、他高専と共同した遠隔地学力試験会場（最寄地受験）の実現について検討する。

本校は入学志願倍率が高いので、遠隔地での学力試験会場（最寄地受験）に関して、緊急的必要性はない。商船学科については、志願倍率の観点と遠隔地からの受験者数が他学科と比較して相対的に多いため、他の商船高専との連携を検討していた。しかし、新幹線開通によって本校学力試験会場の交通の便が改善されたことから、これまで実施していた遠隔地の学力試験会場を見直した。このため、最寄地受験について、他の商船高専との連携は行っていない。

遠隔地で学力試験会場を設置することによって、答案紛失など機密情報に関する危険性が大きくなること、また、遠隔地において毎年一定数の受験生を見込めないことなどの理由から、遠隔地学力試験会場（最寄地受験）については、慎重に検討、対応したい。



継続

- ・ 入試について前年度実施の反省を踏まえ、さらに改善に努める。

過去数年にわたって、複数の学科において、入学者数が学科定員を大きく上回る、あるいは下回るなど、適正な入学者数を確保することが困難であり大きな課題であった。加えて、教育の質保障の観点から、各学科のアドミッションポリシーに対応する人材を入学させるために、それに相応しい入試方法を採用することが強く要請されていた。そこで、本年は入試方法の改善を図った。これまで、入学手続きを 2 回設けており県立高校の合否確定後に本校への入学を決めることができたが、今年度は入学確約書の提出、および入学手続きを県立高校の受験日と同一日に設けることにより、実質的専願制とした。また、商船学科のコース別選抜を廃止した。さらに、次年度より推薦選抜基準を変更することを決定した。各中学校への周知のため、文書送付、ホームページへの掲載、募集要項及び入試広報物への記載、学生募集説明会及び中学校訪問での説明等を積極的に行った。



継続

【中期計画】

- ・ 3 倍以上の実質競争倍率（受験者数÷合格者数）を確保する。
- ・ 学生に興味・関心を持たせる授業のあり方や、学力水準の維持のための取り組みを調査する。
- ・ 各学科における教育活動の事例をホームページやパンフレットを使って広く公開をして、中学校や地域へアピールをする。
- ・ 入学志願者を維持するための方法を検討し、志願者対策室が中心となって改善を行う。
- ・ 専攻科を積極的にアピールして、幅広い進路選択の可能性を中学校や地域社会に周知する。
- ・ 高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集し、女子中学生向けのパンフレットを作成する。

【年度計画】

- ・ 女子中学生向けの志願者確保に向けた取り組みとして、女子高専生の協力のもと作成した高専紹介冊子「高専女子百科 Jr.（富山高専版）」を、県内中学校訪問の際に配布し、本校の女子学生や教職員の状況等を積極的に PR する。

中学校との意見交換会時に配付した。進学個別相談会（12 月 3 日、12 月 10 日）でも配付した。



継続

- ・ 志願者数の確保に引き続き努める。

引き続き、本校主催のオープンキャンパスや学校説明会等で本校の PR に努めると共に、学習塾等の行う進学説明会へ積極的に出席し、本校の紹介・入試制度等の説明を行っている。今年度は新たに 5 月 13 日に本郷キャンパスに、7 月 7 日に射水キャンパスに学習塾講師を招いて学校見学および意見交換を行った。



継続

- ・ 数学や物理の高専統一試験の結果を分析して、補講など学力水準の維持等の対策を講じる。

戦略企画会議、並びに自己点検評価委員会等において、学習到達度試験や英語検定試験などの客観的なデータと本校入学当時（1 年次 4 月実施）の共通試験結果等とともに、教育改善に向けて比較検討が実施された。数学や物理について学力不足と考えられる学生に対して補講を実施した。



継続

- ・ 志願者対策用動画コンテンツに学校活動を盛り込み、広報用 DVD やホームページを積極的に活用して、中学校や地域へアピールする。

本校教員が中学校を訪問する際、中学生、並びに中学教員に対し、本校ホームページ上に学科説明用の動画が掲載されていることを伝え、動画を見ていただくよう推奨した。また、夏季・秋季オープンキャンパスや進学個別相談会で動画を上映した。



継続

・ **本校に入学する学生に対し本校入試に対する意識調査を行い、対応を検討する。**

学力検査時に行っている受験者アンケートの集計・分析を行った。この結果を戦略企画会議など各種会議で取り上げ、今後の改善に繋げた。



修正

・ **本校入試制度の効率的な運用を検討し、受験者数の確保に努める。**

過去数年の受験者、入学者などの入学試験データを詳細に分析した結果、これまでの入試制度では、適正な入学者数を確保することが困難であることが判明した。加えて、各学科のアドミッションポリシーに対応する人材を入学させるために、戦略企画会議、運営審議会の議を経て、本年は実質的専願制へと入試方法を変更した。同時に受験者数を確保するために、各中学校に、カレッジガイド、並びにカレッジリーフレットを配布し、中学生及び進路指導教諭等に、高専の魅力や特徴をわかり易く具体的に紹介した。



継続

・ **専攻科の認知度向上を図るパンフレットの配布やWebサイトの更新を行い、地域社会にアピールする。**

ホームページに本校専攻科を紹介するパンフレットを公開し、地域社会に対して専攻科のアピールを行っている。

地域の企業が集まる会議、例えば国際会議、技術振興会総会、産学官金交流会などにおいて、本校専攻科生による研究発表を行い、専攻科生の能力が高いことを企業にアピールした。



継続

(2) 教育課程の編成等

【中期計画】

- ・ 高度化高専としての教育課程の改善に向けた検討を行う。
- ・ 学科構成や新分野の学科の在り方、専攻科の整備・充実等の新たな進むべき道についても適切な検討を進める。

【年度計画】

・ **新教育課程の点検を行い、必要な見直しを図る。**

戦略企画会議の議を経て設置された「カリキュラムに関するWG」の方針を受けて、新教育課程の改善に向けた検討を、教務委員会、自己点検評価委員会、機関別認証評価受審委員会、並びに学科会議等において行った。その結果、卒業研究単位の増、学習単位の増を全学科で行った。また、アドミッション、カリキュラム、ディプロマの三つのポリシーを策定し、学内外へ公表した。さらに、本校の教育目標を学生、教職員への周知する方法について検討した。

また、戦略企画会議において原級留置率・退学率の改善が必要とされたことを受けて、教務委員会において成績評価の在り方が点検され、単位追認試験の見直しが行われた。



継続

本年度、本校は機関別認証評価を受審した。二つの高専の統合によるシナジー効果により、本校の諸活動に勢いが表れているとの評価意見を受けた。

・ **社会の変化に対応した学科、並びに専攻科のあり方を検討する。**

従前より、産業構造の変化や経済のグローバル化に対応すべく、学科や専攻科のあり方を検討している。この度の文科省のプロジェクト、「KOSEN4.0 イニシアティブ」への申請に向けて、本校の強みと実績を考慮して、地域貢献でき、かつグローバルに活躍できる人材の育成に向けて、新カリキュラムの策定を骨子とした申請を行った。

また、戦略企画会議、運営審議会において、本科生並びに専攻科生の長期インターンシップや海外インターンシップの必要性について審議、検討された。この結果を受け、本科生については、従前、県内外への1～2週間のインターンシップ参加が主であったが、次年度以降は1ヶ月ほどの長期インターンシップも推進することとした。専攻科では、すでに海外インターンシップを実施してきたところであるが、本年度はハンガリー、北アイルランド、マレーシア、並びにタイへの1ヶ月ほどの海外インターンシップを実施した。その体験報告会を、次年度専攻科進学予定者対象に実施し、学生の意識向上を図った。

本校とKMITL（タイ、キングモンクット工科大学）が主催し、毎年開催している国際会議 ICET2016(International Conference on Engineering and Technology2016)において、本校専攻科生55名が英語によるポスター発表を行った。このような機会は学生にとって良い体験となった。

地域産業界との協働教育の一環として、富山高専技術振興会総会において、エコデザイン工学専攻科1年生全員が各自の研究成果の発表を行い、企業の方々との連携強化が図られた。また、富山県機電工業会との協力の下、専攻科1年生対象に「地域産業学」を新規開講した。

【中期計画】

教育課程における基幹的な科目である「数学」、「物理」、「英語」について、学習到達度試験やTOEIC等の検定試験などを活用した教育課程の改善に努める。

【年度計画】

・ **「数学」と「物理」の学習到達度試験を実施し、その結果を分析し強み、弱みを把握することにより、必要な改善を行う。**

戦略企画会議、並びに自己点検評価委員会で、前年度学習到達度試験結果（平成28年1月実施）について分析が行われ、審議された。これを受け、教務委員会において改善に向けて対策が検討された。数学、物理の担当教員と学科長らでより詳細な検討が行われ、



継続



継続

学習領域の一部重複や欠落、授業時期等の問題について、教科間連携による系統的な改善が行われた。

「数学」「物理」「化学」の基礎力強化のため、CBT トライアルへの積極的参加がなされた。

・**TOEIC 等の検定試験の受検を積極的に推奨し、本科 3 年生及び専攻科生を対象とした TOEIC 対策講座を昨年度に引き続き企画する。**

昨年度に引き続き、後援会と連携を図り、本科 3, 4 年生並びに専攻科 1 年生を対象に、TOEIC 受験の促進を図った。本年度は「TOEIC の賛助会員」に加入したことによって受験料が下がり、受験機会が拡充した。射水キャンパスでは学科ごとに TOEIC 対策講座を実施し、本郷キャンパスでは、退職した英語教員を特命フェローとして雇用し、TOEIC 対策指導及び分析を行っている。

○

修正

・**自己点検評価委員会等において学習到達度試験や英語検定試験などによる客観的なデータに基づいた点検評価の実施方法について継続的に検討する。**

自己点検評価委員会等において、学習到達度試験や英語検定試験などの客観的なデータと本校入学当時（1 年次 4 月実施）の共通試験結果等とともに、教育改善に向けて比較検討が実施された。平成 29 年 1 月に実施した学習到達度試験についても、これまでと同様に点検評価を行い、継続的な教育改善に反映させる予定である。

○

継続

・**専攻科において、一部の授業において英語による授業、あるいは英語コンテンツを利用した授業を行っている。今後、英語授業の割合が増えるようさらに工夫していく。**

高専機構の「英語力向上取り組みに関する事業」を 3 年間にわたり実施してきた。本年は最後の年になるが、事業の成果として、本校専攻科における 30 の講義に関する英語コンテンツを作成した。講義の中でコンテンツを使用した体験から、今後の改善に向けて学生、並びに教員のアンケート評価を行った。また、専攻科の一部で、MIT ビデオ講座の英語教材を活用した授業や、北アイルランド、South Eastern Regional College の学生と連携した実験実習の実施を試験的に開始した。また、本校主催の国際会議 ICET2016(International Conference on Engineering and Technology2016)を、専攻科生 55 名がポスターを英語で作成し発表する教育機会として活用した他、例年実施している Joint CAST(専攻科生による英語プレゼン)を熊本高専・豊田高専と実施した。

○

継続

【中期計画】

- ・ 学生による授業評価アンケート，教員相互によるピアレビューなどを実施し，授業改善を図る。
- ・ 卒業生等への学校評価アンケート等を実施し，教育改善への積極的な活用を図る。

【年度計画】

- ・ 学生授業評価アンケートを実施し，FD 委員会や教務委員会で資料の活用方法について検討する。

前期と後期の 2 回，学生による授業評価アンケートが実施された。FD 委員会や教務委員会では，アンケート結果を集約し，授業改善について検討・提言が行われた。各授業個別のアンケート結果は，所属学科長を通じて授業担当教員へ伝えられ，改善点の検討に活用される。

授業改善の推進として，アクティブラーニングについての研修会が開催された。(11 月 29 日)

- ・ 教員相互のピアレビューを実施し，結果に基づき，今後の教育改善を図る。また，教員による，キャンパスを超えた授業見学を積極的に推進する。

前期と後期の 2 回，教員相互のピアレビューを実施した。授業見学後のアンケート結果を，授業担当教員へフィードバックするとともに，学科会議で審議することにより，授業改善に向けて活用している。

- ・ 学生のニーズ等を調査し，教育改善・将来構想の検討を行う。

授業の途中あるいは最終日に学生からの授業アンケート調査を行っている。この他，学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。毎年，本科 4・5 年生および専攻科学学生と校長をはじめとする教員との懇談会を開催し，彼らの要望を聞き，教育環境の改善，カリキュラムの改善に反映している。

【中期計画】

スポーツなどの全国的な競技会や，ロボコン等の全国的なコンテストへの積極的な参加を勧めるとともに支援する。

【年度計画】

以下の全国的なコンテストへの参加を推奨し，支援し，学生の自立，創造性の発揮を全



継続



継続



継続



校的な規模にすることを図る。また、その他の全国的なコンテストへも積極的に参加を推奨する。

A 「全国高等専門学校体育大会」

B 「全国高等専門学校ロボットコンテスト」

C 「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」

D 「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

本年度は、クラブ顧問、コーチ等による熱心な指導により、地区大会等において優秀な成績を収め、多数の学生が全国大会への進出を果たした。本郷キャンパスでは、各クラブにおいてコーチを委嘱し、引き続きクラブ活動の強化を図った。今年度よりメカテック部においてコーチを委嘱し、ロボコン指導を依頼した。射水キャンパスでは、昨年度に引き続きロボットコンテスト出場チームには特命フェローを配置し、学生からの相談に対応できる指導体制を整備した。また、運動部学生に対し、AED 説明会、熱中症対策講座を開講し、安全なクラブ活動を支援した。項目毎の活動状況を以下に要約する。

A :

陸上・柔道・剣道・水泳・テニス・バドミントン・男子バスケットボール・女子バスケットボール・女子バレーボールの各クラブは全国大会に出場した。団体の部では、女子バドミントン 3 位、陸上女子 3 位、個人の部では、バドミントン女子ダブルスが昨年に続く優勝、女子円盤投げが連覇の優勝、男子砲丸投で 1 年生優勝、剣道男子個人戦準優勝、陸上女子 100m、女子やり投、女子 200m、水泳女子背泳ぎ 50m で 2 位、水泳男子 100m 背泳ぎ、男子 200m 背泳ぎ、陸上男子円盤投げ、男子 110mH、柔道男子 90 k g 級、90kg 超級、女子 63 k g 級、テニス女子ダブルスで 3 位等好成績を収めた。

B :

東海北陸地区大会において、本郷キャンパス A チームが優勝し田中貴金属グループの特別賞を受賞し、全国大会に出場した。また本郷キャンパス B チームは、デザイン賞受賞、射水キャンパス A チームもベスト 4 まで進出しマブチモーター賞を受賞した。

全国大会では、本郷キャンパス A チームがベスト 8 まで進出し、アイディア賞、マブチモーター賞を受賞した。

C :

東海北陸地区英語スピーチコンテストで 1 位、2 位となり、第 10 回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(スピーチ部門)に出場を決めた。

D:

射水キャンパスから課題、自由、競技すべての部門について本大会への出場を果たし、競技部門では全国ベスト 8 に入り特別賞を受賞した。

その他 :

高専弓道大会において、女子団体戦 3 位、女子個人 3 位となった。全国高専将棋大会男子団体準優勝、女子個人 2 位、男子個人 3 位となった。2016 希望郷いわて国体において

セーリング競技で少年男子 420 級，少年男子レーザーラジアル級，陸上競技で少年男子 B100m，砲丸投およびゴルフ女子団体・個人に出場した。第 2 回ジュニア世界空手道選手権大会において男子 60 級で優勝，男子 55+級で 3 位の好成績を収めた。本郷キャンパス 1 年生が，WRO 世界大会に出場し決勝に進出した。

【中期計画】

ボランティア活動，社会奉仕活動，自然体験活動など学内外の体験活動への積極的な参加を勧めるとともに支援する。

【年度計画】

- ・ 学生に対し，合宿研修，特別教育活動，同好会活動などの学内外の体験活動(ボランティア，社会奉仕，自然体験)への積極的な参加を推奨する。また，学生会等の活動を支援し，学生の自主，自律の涵養を図る。

1 泊 2 日（5 月 9 日～10 日）の日程で 1 年生合宿研修を「国立能登青少年交流の家」で実施した。同研修では，工学系，文系，商船系と異なる分野の学生が一堂に集い，レクリエーション行事等の計画作りを通じて，分野の壁を越えて学生同士の交流が図れ，キャンパス相互の絆を強くし友情を深めることができた。また，クラス単位での活動を通して，クラスの結束を深め，教員との信頼関係を築き，これからの高専生活を充実したものにしていく基盤作りとなった。

本郷キャンパスでは，富山県赤十字血液センターの献血キャンペーンに参加し（8 月と 12 月，各 20 名参加），同世代の若者に献血の理解と協力を呼びかけるボランティア活動を実施した。

本郷キャンパス寮では，6 月に町内の清掃活動を実施した。

射水キャンパスでは，6 月に 3 年生の学年行事として海浜清掃を実施した。この他に，学生会が，射水市主催の学生のまちづくり推進会議学生会議に参画し，政策提案コンテストの運営に協力した。

射水市教育委員会が主催する市内中学生のための土曜塾，夏休み補講の講師として協力した。

（3）優れた教員の確保

【中期計画】

- ・ 公募制などにより，博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用する。



継続



- ・多様な背景を持つ教員組織とするため、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を 90%以上になるようにする。
- ・両キャンパスのスケールメリットを生かした人事を行う。
- ・教員の人事交流を積極的に進め、他機関での経験を有する教員の増加に努める。

継続

【年度計画】

- ・採用教員を育てるための学内インターンシップ制を実施する。必要に応じて、研究指導のために、優れた人格と研究業績を有する教員などを採用する。

新任教員のメンターに、研究指導に優れた教員を配置した。

本校独自の教員海外派遣制度に基づき、若手教員 2 名を学術交流協定校へ派遣し、海外経験を積ませて、研究交流を促進した。

優れた人格と教育・研究業績を有する高校、及び大学を定年退職した教員を特命フェローとして採用した。

- ・教員採用にあたっては優秀な学生を修士取得段階で本校に採用し、社会人入学制度を利用して博士の学位を取得させ、優秀な人材の確保に努める。

教員公募を行う際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後 3 年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。

○

継続

- ・教員採用にあたっては公募を原則に、博士の学位を有する者、並びに他の研究機関、民間企業で実績をあげた者など、優れた教育・研究力を有する人材を教員として採用する。

公募制を原則として、博士の学位を有する者や他の教育研究機関等で実績をあげた者など優れた教育・研究力を有する人材を教員として採用した。(H28 年度：博士の学位取得者 4 人、H28 年度科研費採択者 2 人)

○

継続

- ・多様な背景を持つ教員組織とするため、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を 90%になるよう推進する。

教員採用に当たり、公募を原則に、女性教員の採用、並びに多様な背景を持つ教員組織とすることを念頭において選考を進めた。また、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を 90%になるよう推進するために、国内外の教育研究機関等に派遣した。

○

継続

○

・ **教員の海外研修、近隣大学との教育・研究交流を積極的に進め、他機関での経験を有する教員の増加に努める。**

本年は、本校主催の国際会議を2回（中国東北大学、タイ KMITL）開催して教員の英語による研究発表の経験を積ませ、海外教員との共同研究を進めた。また、会議発表論文の国際ジャーナル（査読付き）への投稿を推奨した結果、23編の論文が掲載された。これらの会議は次年度も計画中である。

海外の提携大学との研究交流を進めるために、英文による本校の概要、並びに研究者リストを作成し、海外提携校へ配布している。

多様な背景を持つ教員組織、研究力強化、並びに国際性推進を目的に、本校教員を海外高等教育機関へ計画的に派遣するための制度を策定した。本年は2名の教員を海外の大学へ派遣した。今後は、海外高等教育機関からの教員招聘も計画中である。

第3ブロック内（東海・北陸・近畿地区）の複数高専間の共同研究を奨励した結果、多岐にわたる研究分野において、複数の研究グループが活動中である。また、本年は共同研究、外部資金への共同申請をさらに推奨するために、ブロック内の研究者、並びに研究設備のデータベースを作成し、これらの有効利用に努めた。

富山大学の博士課程に本校教員が3名在学中であるが、これらの大学における研究経験を、今後の教員間の共同研究の推進、学生交流など交流強化に繋げることとしている。

【中期計画】

- ・ 高専・両技科大間教員交流制度を利用して、教員の交流を推進する。
- ・ 高専・両技科大で、学生の継続した研究指導を行うための協議を行う。
- ・ 技科大との継続した教育環境を実現するために、本科や専攻科のカリキュラムの改善を図る。
- ・ 大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。

【年度計画】

・ **近隣大学との教育・研究交流、並びに人事交流を積極的に進め、多様な経験と優れた教育・研究業績を有する教員を育てる。**

富山県内の高等教育機関で構成されるコンソーシアムへの参加を通じて、授業の提供、授業の単位の互換を進めた。また、教員の研究力向上のために、近隣大学教員との共同研究、外部資金への共同申請、並びに学生、教員の交流を推奨している。

本校教員で博士号未取得者の3名が、現在富山大学博士課程に在学中である。博士号取得とその後の共同研究、並びに学生交流の推進に繋がるよう、同大学との交流を推進している。

富山県の地域産業に密着した教育プログラムとして、「次世代スーパーエンジニア養成コース」を富山大学と本校の共同主催で実施している。教育プログラムの作成に当たって

は、地域産業界の意見を取り込みつつ、講師の派遣などを通じて地域総がかりの技術者を育成する事業の一端を担っている。

富山大学を中心にコンソーシアム富山の連携大学が加わって申請した COC+が採択され、事業活動を実施している。今後、コンソーシアム富山における教員間の教育・研究交流の強化が期待できる。

長岡、豊橋両技科大との研究連携（連携教員指名含）を推進した。

・ **教育研究面で長岡、豊橋技科大学との連携を図る。**

本科と専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラム、共同研究について、長岡、豊橋両技術科学大学と引き続き協議を進める予定である。

○

継続

・ **長岡技術科学大学と連携して行うアドバンストコース事業を推進して、教育改善を図る。**

長岡技科大アドバンストコース・協働科目Ⅰ「英語プレゼン」を開講し、両キャンパスの教員、長岡技科大の教員らと協力して行った。先導科目「先端技術講座／先端技術演習」発表会の審査の協力を行った。長岡技科大 学部 3・4 年生対象、協働科目Ⅱ「地域産業と国際化」の講義を行った。

○

継続

・ **高専と両技科大間との教員交流制度を利用して、引き続き、教員の交流を推進する。**

高専と両技科大間との教員交流制度を利用して、引き続き、教員の交流を推進する。

○

継続

・ **三機関連携プロジェクトを利用して、教員の教育研究交流を推進する。**

三機関連携プロジェクトによる教育研究助成により、長岡技科大教員及び他高専教員との教育研究交流を行った。

本校において三機関連携プロジェクトの意見交換会を開催して、教員の教育研究交流に関する協議を行う予定。

○

継続

【中期計画】

- ・専門科目担当の教員については、博士の学位や職業上の高度の資格を持つ者の比率を 90% 以上とする。
- ・一般科目担当の教員については、修士以上の学位や高度な実務能力を持つ者の比率を 90% 以上とする。
- ・幅広い教育分野を実施できるよう、近隣大学博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を活用して、各教員に必要な資格の習得を促進する。

【年度計画】

- ・ 教員採用にあたっては、近隣大学において優秀な学生を修士取得段階で本校に採用し、社会人入学制度を利用して博士の学位を取得させ、優秀な人材の確保に努める。

教員公募を行う際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後 3 年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。



継続

- ・ 博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を利用して、学位など高度な資格取得を引き続き勧める。

博士号未取得者に対し富山大学博士課程への社会人入学を推奨し、博士号取得と他大学における研究実施の経験を推進している。現在、本校教員で、3 名の博士号未取得者が富山大学博士課程に在学中である。



継続

- ・ 教員の採用にあたっては、引き続き公募を原則として、応募資格を原則博士の学位取得者とするなど優秀な教員の確保に努める。

教員の採用にあたっては、引き続き公募を原則として、応募資格を原則博士の学位取得者とするなど優秀な教員の確保に努めた。

専門科目等担当教員の博士(技術士を含む)の学位を有する割合 86% (80 名/93 名)



継続

【中期計画】

- ・ 女性教員の増加を進めるための環境整備を進める。
- ・ 専門学科での女性教員確保に努める。
- ・ 女性教員に高専を理解してもらうための資料作りを行う。

【年度計画】

- ・ 教員を公募する際には、県内大学へ赴き、修士取得以上という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院生からの公募を呼び掛ける。

教員公募の際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後 3 年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。



継続

- ・ 女性教員に高専を理解してもらうためのホームページにより、外部にアピールする。

女性スマイル・アップ推進委員会を中心に、HPに「高専教員へのロードマップ」を掲載し、女性教員に高専を理解してもらえるように心がけた。



継続



・ **専門学科での女性教員確保に努める。**

教員採用に当たり、女性教員の採用、並びに多様な背景を持つ教員組織とすることを念頭において選考を進めた。

継続

・ **女性スマイル・アップ推進委員会を中心に、女性教員の増加を進めるための環境整備を行う。**

女性スマイル・アップ推進委員会を中心に教職員ミーティングを開催して、環境整備などについて議論し、必要な環境整備のための経費を校長裁量経費へ申請した。

○

継続

・ **女子大学院生に高専を体験してもらう事業を通して、高専の教育研究環境の広報を行う。**

女子大学院生に高専を体験してもらう事業を公募し、高専の教育研究環境の広報を行っている。近隣大学との連携のもとに、女子大学院生に対し、本校におけるインターンシップの体験を呼びかけ、1名を受け入れた。

○

継続

【中期計画】

- ・ 両キャンパス合同で、教員の能力向上を目的としたFD研修会を積極的に企画実施する。
- ・ クラス経営・生活指導における教員研修や、管理職研修など、外部で開催されている企画事業に積極的に参加する。
- ・ 外部で開催されている教員研修の案内を学内で周知する。
- ・ 一般科目や新規採用の教員担当科目における授業研究会を開催する。

【年度計画】

・ **両キャンパス合同で、企業等を利用したFD研修会を積極的に企画実施し、教員の能力向上をめざす。**

両キャンパス合同で11月29日にアクティブラーニングに関するFD研修会を開催し、授業の質、並びに授業スキルの向上を図った。合同研修会以外に、キャンパス毎のFD研修会も開催している。本郷キャンパスでは7月20日にFD研修会を開催し、射水キャンパスは2月7日にFD研修会を開催する予定である。キャンパス毎のFD研修会には、両キャンパスの教員が相乗りで参加できる。

○

継続

・ **クラス経営・生活指導における教員研修や、管理職研修など、外部で開催されている企画事業に積極的に参加する。**

高等専門学校新任教員研修会、国立高専機構高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)、国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修(管理職研修)、学生相談・メンタルヘルス研修会、国立高等専門学校メンタルヘルス研修会、女性研究者研究交流会、などに教員を派遣した。報告会を適宜開催し、参加教員から他教員へ、研修内容を報告

○

継続

してもらうこととしている。

・ **外部で開催されている教員研修の案内を学内で周知する。**

外部で開催される教員研修を教員に周知し、研修会への参加を促した。本年は富山県内の高等教育機関教員研修に参加した。報告会を適宜開催し、参加教員から他教員へ、研修内容を報告してもらうこととしている。

○

集約

・ **外部で開催される研修会の周知を図り、積極的な参加を推奨する。**

外部で開催される研修会を教職員に周知し、参加を募った。

○

修正

【中期計画】

- ・ 学生アンケートや業績に基づいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。
- ・ FD 研修会において、教育業績や研究業績を持つ教員の講演会を行う。

【年度計画】

・ **学生アンケートや業績に基づいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。**

本校教職員表彰の制度に基づき、教育、研究、地域連携、学生指導及び業務改善等の分野で特に顕著な功績をあげた者 1 名を、両キャンパスの教員が参加する全教員会議（6 月 10 日）において表彰した。

機構が実施する教員顕彰制度に、本校から顕著な功績が認められる 2 名の教員を推薦し、1 名が受賞した。

○

継続

・ **FD 委員会において、教育業績や研究業績を持つ教員等の講演を実施し、両キャンパスの教員が参加可能な FD 研修会を引き続き開催する。**

全教員を対象に、11 月 29 日にアクティブラーニングに関する FD 研修会を開催した。また、前年度、校長裁量経費を受けた教員の研究成果報告会（8 月 3 日開催）を実施した。この他、本年度から 2 名の教員を海外高等教育研究機関へ派遣する制度を実施し、帰国した教員より、外国での体験を報告してもらうこととしている。

○

継続

- ・ **教員のキャリアパス形成のために、教育、研究、地域貢献、学内管理等の項目に従ったポートフォリオを作成し、それに基づいた自己評価システムを実施することにより教員の評価指標を確立する。**

教員の教育、研究、地域貢献、学内管理等の項目に従ったポートフォリオを作成し、年間の計画を立てることができるようにした。また教員の評価指標に活用した。



継続

【中期計画】

- ・ 国内外の研究機関へ教員を派遣し、学位取得や教育研究面での能力向上を推進する。
- ・ 教員への国内・国際学会等への参加を推奨する。

【年度計画】

- ・ **教員の国内・国際学会等への参加を促進する。本校が主催となり国際会議を開催し、本校の教員の参加を促す。また、高専機構が主催する国際学会への積極的な投稿、参加を促す。**

本年、本校が中心となって 2 回の国際会議を開催し、国際会議での研究発表と国際共同研究を推奨した。会議終了後、フルペーパーを査読し、国際雑誌へ投稿するよう参加者に促している。また、ISATE2016 等の高専機構主催の国際学会へ積極的に参加し、研究発表を行った。



継続

- ・ **教員の海外、及び内地研修、並びに博士課程への社会人入学を進め、学位取得や教育研究面での能力向上を図る。**

引き続き、博士号未取得の教員に対し博士課程への社会人入学を推奨し、学位取得の支援を進めている。

教員の働きやすい職場環境整備及び教員の教育研究能力の向上を図るため、校独自の教員短期研修制度を実施している。加えて、本校教員を海外高等教育機関へ派遣するための制度を策定し、教員の海外経験を計画的に推進することとし、2 名の教員を派遣した。



継続

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

【中期計画】

- ・ 高度化高専としての教育課程の改善に向けた検討を行う。
- ・ 富山高等専門学校の地域性、学科構成等の特性を生かした教育方法の開発を図る。



【年度計画】

・ 物理、化学の授業に実験を積極的に取り込み、学生の興味を喚起する。

工学系4学科においては、平成27年度入学生から、カリキュラムに基礎科学実験を組み込み、実験の機会を増やしている。

・ 本科の卒業研究、専攻科における特別研究の内容を見直し、実施方法を改善し、学生の問題解決力、コミュニケーション力、積極性の向上を図っている。

問題解決力やコミュニケーション力、積極性の向上を目的に、卒業研究や特別研究の中間発表会を実施し、研究目的と社会的・工学的背景の関係、考察等について、積極的にディスカッションする機会を多く取り入れている。

また、国内外での学会発表や海外インターンシップの参加を推奨している。これに関し、本校後援会と連携し、本科5年生及び専攻科学生に対し、学会発表に伴う旅費を補助している。

・ 「ものづくり基礎工学実験」及び「技術者倫理入門」において、工学系、人文社会系、商船系の3分野を融合した授業を展開する。

従来、6学科学生の混成グループで行ってきたこれら授業を、学科ごとに実施した。

・ 引き続き、モデルコアカリキュラムの導入に向けての準備を進める。

工学系分野のモデルコアカリキュラムの導入に向けて、ルーブリックによる評価項目やWEBシラバスとの連携について準備を進めた。

国際ビジネス学科、商船学科について、機構本部、並びに他高専と連携しながらモデルコアカリキュラム作成の準備を開始した。

【中期計画】

- ・ 実践的技術者養成の一環として、在学中の資格取得を勧める。
- ・ 工学系専攻科の保有しているJABEE認定を維持、更新し、教育の質の向上に努める。

【年度計画】

・ 新カリキュラムに合わせた資格取得を勧める。

学生が一定の資格を取得した場合には、これを、本校以外での学修単位として認定できることを定めている。また、各種の資格試験会場として、本校の施設を提供することにより受験生への便宜を図っている。

継続

○

修正

○

削除

○

継続

○

継続

・ **FD 委員会教育改善専門部会において、エコデザイン工学専攻と制御情報システム工学専攻の JABEE プログラムの各項目について点検確認を行う。**

FD 委員会教育改善専門部会では、関係する学科との連携のもとに、JABEE プログラムの各項目について点検確認を実施している。

○

継続

【中期計画】

中部日本海高専間などの学校の枠を超えた学生の交流活動を企画、推進する。

【年度計画】

・ **他高専と協力して東南アジアからの短期留学生の共同受け入れなどを推進する。**

他高専と協力して、KMITL(タイ) からの短期留学生の受け入れをした。また、SERC (英国) へのインターンシップにも参加した。タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から 11 名の短期留学生を受け入れた。また、シンガポールのナンヤンポリテクニクから 4 名、並びにテマセクポリテクニクから 4 名の学生を受け入れた。

○

継続

・ **商船学科を有する五高専間の学校間の交流事業を実施すると同時に、必要な教材を開発し、教育方法の改善を図る。**

五高専連携のもとに、大学間連携事業「海事人材プロジェクト」を 5 年間にわたり実施している。同プロジェクトにおいて、今年度 2 冊の教科書を刊行する予定である。(すでに 6 冊刊行済み) また、6 冊については電子書籍化した。

毎年、五高専が協力して、ハワイのカウアイコミュニティカレッジ (KCC) において学生の海外インターンシップを実施している。本年は 16 名の学生が参加した。

商船学科を有する五高専の学生主事会議で各校の厚生補導について情報交換を行った。

さらに、教育方法については学生アンケートを実施し、その結果をフィードバックして改善に努めている。

○

修正

・ **「大学コンソーシアム富山」実施事業への参加等を通して富山県内大学等の交流を促進する。**

本校が主管校となって、大学コンソーシアム富山主催の「大学等リーダー研修会」を実施し、学生会役員及び本校教員が多数参加した。

大学コンソーシアム富山が実施した「合同企業訪問」に本校から 1 名の学生が参加した。また、大学コンソーシアム富山が実施した「単位互換認定」に 6 名の学生が申請した。

その他、射水市が主催する学生のまちづくり推進会議学生会議に学生委員として参画し、他大学の学生とともに活動を行った。

○

継続

【中期計画】

- ・総合データベースを活用して、優れた教育実践例を収集・公表し、FD 研修会などで情報共有を図る。
- ・国内外の教育機関における優れた教育実践例の収集と整理に努め、教育方法の改善を促進する。

【年度計画】

- ・FD 委員会が中心となり、優れた教育実践例を教員間で共有する。

両キャンパス合同のアクティブラーニングに関する FD 研修会において、2 名の教員が実践報告した。(11 月 29 日)



継続

- ・高専改革推進経費等の教育推進事業を通して、学習教材の開発や学習プログラムの構築を行う。

高専機構の「英語力向上取り組みに関する事業」を 3 年間にわたり実施してきた。本年は最後の年になるが、事業の成果として、本校専攻科における 30 の講義に関する英語コンテンツを作成した。講義の中でコンテンツを使用した体験から、今後の改善に向けて学生、並びに教員のアンケート評価を行った。

協定締結校であり、アクティブラーニングに関する先進的な取り組みを行っている英国北アイルランド SERC との共同事業を通じてアクティブラーニングに関する情報交換を行った。またハワイ大学カウアイコミュニティカレッジの遠隔授業について、調査を行う予定である。



継続

【中期計画】

大学評価・学位授与機構による認証評価に適合する教育課程とする。

【年度計画】

- ・自己点検評価委員会のもとで、自己評価、並びに第 3 者評価に関する機関別認証評価受審委員会を開き、評価、改善を積極的に推進する。

機関別認証評価受審委員会を定期的開催し、受審に向けて入念な準備を行った。その結果、本年、無事、機関別認証評価の受審を終えることができた。また、自己点検評価委員会を定期的開催し、教育・研究等諸項目に関する点検・評価と改善を計画的に進めている。

- ・自己点検評価とそれによる改善を効率的に行うために、作成した点検チェックシートを改善する。

自己点検評価委員会において、自己点検評価とその後の改善を効率的に行うために、点検項目の再チェックを行い、点検チェックシートの改善を行った。



継続



継続

【中期計画】

- ・ インターンシップの取組を、商船学科の学生を除き、8割の学生が卒業までに参加できるように、積極的に推進する。
- ・ 地域産業界と連携した「共同教育」を推進する。

【年度計画】

- ・ **本校学生のための教育カリキュラムについて、企業と本校とが協働して検討し、授業として実施する。**

富山県機電工業会との協力の下、28年度より「地域産業学」を新規開講し、機電工業会に加入している企業担当者による講義を専攻科1年生に聴講させている。また、エコデザイン工学専攻1年生の「ロボット工学特論」では、毎回、産業界でロボットの設計やデバイスの開発などに従事している企業の専門家を講師として招き、実物の装置に触れられるように実習装置などを使用した授業を行っている。また、国際ビジネス学専攻の「環日本海ビジネス演習」では、環日本海ビジネス現場に関わる企業への工場見学と講演を組み込んだ授業を行っている。その他の科目においても、単発的に、企業の方をお招きすることも多く、企業と本校が協働した授業を実施している。



継続

- ・ **富山高専技術振興会会員企業等へのインターンシップを促進するために、参加学生の支援を行う。**

富山高専技術振興会企業等の国内工場や海外工場へのインターンシップについて、次年度以降も継続して促進していくため、学生と企業とのマッチング作業、事前研修、就業体験期間中における教員による視察、就業後の成果発表等の支援を行った。

エコデザイン工学専攻では、海外インターンシップ参加学生に対する渡航費用の助成を行った。国別の参加学生は、タイ：5名、マレーシア：2名、ハンガリー：4名であった。

制御情報システム工学専攻および国際ビジネス学専攻では、昨年度は国際インターンシップへの参加がほとんどなかったが、今年度は指導教員の協力支援のもとで、地域企業等のインターンシップに4名が参加した。また、これまで3週間以上のインターンシップのみを単位認定対象としていたが、来年度からは、短期での単位認定も可能となるように運用規則を改定した。海外インターンシップ参加の専攻科生に対して射水キャンパス後援会から補助金の支援を頂く仕組みを立ち上げた。その他、保険を含む参加時の学生支援が整備されている。



継続



・ **就労体験を取り入れた専攻科用の海外インターンシッププログラムの環境整備を行い試行する。**

エコデザイン工学専攻では、国際交流センターの協力を受け、タイ、マレーシアで就労体験を取り入れたインターンシップ（2週間）を継続実施した。また、ハンガリーでは大学における研究型インターンシップ（1ヶ月）を新規に実施した。参加者数はタイ（2企業、5名）、マレーシア（1企業、2名）、ハンガリー（2大学、4名）の合計11名であった。これは、インターンシップに参加した全1年生の41%に相当する。

継続

・ **海外インターンシップの事前学習のための環境を整備する。**

エコデザイン工学専攻では、海外インターンシップ先に滞在中の危機管理サービス（OSSMA）への入会も含め、担当教員ならびに国際交流センターが、事前学習の機会を数多く提供している。また、企業によっては、該当する学生を事前に国内の親会社へ訪問させ、担当社員から話を聞くなど、インターンシップの効果をより高める環境を整備した。制御情報システム工学専攻および国際ビジネス学専攻では、科目担当教員ならびに国際教育センター員による事前学習や、昨年度の参加学生による体験紹介などを実施している。また同様に OSSMA へ入会と危機時の連絡方法等の説明を行っている。

更に、海外インターンシップ参加への経費支援を兼ねた教育面での強化のために、文科省トビタテ！留学 JAPAN への応募説明会を実施し、学習課題の設定と応募書類作成を通じた事前学習に際して助言を行う等、支援環境を整備した。

○

継続

・ **専攻科生が、海外インターンシップに参加しやすいようにするため、新学科対応の専攻科カリキュラムを検討し、新学科生の入学から適用できるようにする。**

エコデザイン工学専攻カリキュラムにおいて、インターンシップの単位をインターンシップ A（国内）、インターンシップ B（海外）にわけ、選択科目として扱っている。一般に、国内のインターンシップよりも間口の狭い海外インターンシップに、チャレンジできるよう配慮した。

射水キャンパスの3専攻では、これまで3週間以上のみを単位認定していたが、高専機構が主催する8日間程度の海外インターンシップ等への参加を促すために単位認定の条件を改定した。

○

修正

【中期計画】

退職技術者を含む企業人材を活用した教育を積極的に進める。

【年度計画】

○

・ 企業人材（客員教授，コーディネーター，シニアフェローなど）を活用した教育改善を実施する。

継続

引き続きシニアフェローの活用について検討し，現在 26 名のシニアフェローを任命した。

また，シニアフェローを活用し，情報交換を密にするために昨年度構築したシニアフェローネットワークについて，運用を継続している。

【中期計画】

学生教育課程，教員の教育研究などの複数の視点から，他大学や技科大との有機的な連携の強化を進める。

【年度計画】

・ 他大学や海外の高等教育機関とも連携を取り，教員の共同研究や，学生の研究力・語学力の向上を進める。

○

継続

KMITL(タイ) やナンヤンポリテクニック(シンガポール)，テマセクポリテクニック（シンガポール）の学生を短期留学生として受け入れ，学生交流を促進した。

専攻科及び本科学士の海外インターンシップを強力に進めるため，海外提携大学との検討を行った。

KMITL(タイ) と，工学と技術に関する国際会議（ICET2016）を富山で開催して，研究交流の推進を図った。

本校教員を海外高等教育機関へ派遣するための制度に基づき，教員の海外経験を推進し，2名の教員を派遣した。

・ 本科や専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて協議を進める。

○

継続

本科と専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて，長岡，豊橋両技術科学大学と引き続き協議する予定。

・ 長岡技科大と連携したアドバンストコース事業を，両キャンパスの教員が協力して進め，高い効果が得られるように努力する。

○

継続

全学科，4・5 年生を対象に，長岡技科大アドバンストコース・協働科目Ⅰ「英語プレゼン」を前期に開講した。協働科目は，両キャンパスの教員，長岡技科大の教員らと協働で行い，高い効果が得られるように努力した。先導科目「先端技術講座／演習」では，長岡技科大で開催された発表会において，本校教員が審査員として協力した。また，ステージ2(長岡技科大 学部3・4年生対象)・協働科目Ⅱ「地域産業と国際化」の講義を協働で行った。

・ **他大学、技科大と商船学科・国際ビジネス学科の進学促進のために、出前授業を引き続き実施する。**

商船学科・国際ビジネス学科の進学促進のための、技科大の出前授業を実施した。本校と富山大学との間に包括交流協定を締結し、本校専攻科学生が同大の文系、理系、医薬系、芸術系を含めた大学院への多様な進路を選択できるようにした。

○

継続

【中期計画】

インターネットを活用した ICT 活用教育の取組を充実させる。

【年度計画】

・ **e-ラーニングや ICT 活用教育ができるように環境を整備し、教育環境の向上を図る。**

学生向けに Microsoft Office を提供するサービスとして Office365 が利用できることを、全ての学生に周知した。

本校では、e-ラーニングや ICT 活用教育ができるように、各キャンパスに複数の情報処理演習室を設置している。また、教室や実験室・卒研室においても無線 LAN や有線 LAN を利用できるほか、各教室にプロジェクターやスクリーンを設置している。また、本年は CBT トライアル試験を実施するなど、ICT を活用した教育を実施するための環境整備を進めた。

○

修正

(5) 学生支援・生活支援等

【中期計画】

・ 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舍生活を送っている特性を踏まえ、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援を充実させる。

- A メンタルヘルスを含めた学生支援のための講習会を教職員向けに実施する。
- B メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の講習会に教職員を参加させる。
- C 学生や保護者が相談しやすい学生相談体制を整備する。
- D 福利厚生施設等の学生の生活環境の充実を図る。

【年度計画】

・ **メンタルヘルスに関する各種アンケートを実施し、学生支援の情報を提供する。**

本郷キャンパスでは、前期に全学年対象に自殺予防チェックリスト、後期に、1～3 年生対象に hyper-QU アンケート、4 年生以上には EQS アンケートを実施した。担任、及び学生相談室は学生との面談時に、学生支援の情報として、アンケート結果を活用している。また、アンケート結果によっては、学生と相談室員、あるいはカウンセラーとの面談に繋いだ。

射水キャンパスでは、4 月に「こころと体の健康調査」を実施した。調査結果から支援

○

継続

が必要と思われる学生については、普段の様子を担当に注意して観察してもらうようにし、必要に応じてカウンセリングに繋いだ。夏休み明けの9月には、1～3年生に対してhyper-QU アンケートを実施した。担任は、クラスルーム時にアンケート結果を活用し、必要に応じて、学科長・学年主任・相談室と連携しながら、学生への個別対応を行った。4、5年生および専攻科生には、自分自身について知ることを目的として、新版 TEG II を実施した。

・ **特別な支援が必要な学生に対して、支援体制を整える。**

特別支援教育室を設置し、発達障がいや、重度の障がい等、障がいを有する学生への支援体制を整備した。不登校や成績不振の学生などに対して、それぞれの状況に応じて、担任、学年主任、学科長が連携しながら対応している。この他、重大な案件に関しては、特別支援教育室員をはじめとする教職員による対策チームが対応することとしている。さらに射水キャンパスでは、特別な支援が必要な学生の見守り体制を整え学生支援を行った。



継続

・ **学生、並びに教職員向け（メンタルヘルスを含めた学生支援のための）の講習会（研修会）を実施する。**

本郷キャンパスでは、7月に教職員に対し、本校のカウンセラーによるメンタルヘルスに関する講演会を行った。その後、教育後援会主催によって、同内容の講演会を保護者向けに実施した。今後、教職員を対象に、精神科医による研修会を行う予定である。これは、学生のメンタルヘルスに関して学び、学生との接し方などを見つめ直すことなどを目的とする。

学生に、正しい知識と適切に対応する力を育成することを目的に、1年生の合宿研修時（5月）に、「スマホケータイ安全教室」を実施した。また、本郷キャンパス1年生（6月）及び射水キャンパス3年生（11月）に対して、「薬物乱用等非行防止」に関する講演、射水キャンパス1年生（11月）及び本郷キャンパス2年生（7月）に対して、「エイズ・性感染症の予防に関する健康教育」に関する講演会を開催した。また、交通安全講習会（5月、運転免許取得学生・原付バイク通学生等対象）、ネットモラル講習会、熱中症対策講座、薬物乱用防止に関する講習会も行った。また、学生生活中的トラブルを未然に防止するため、1年生に啓蒙用の冊子を配付した。



継続

・ **教職員が各種メンタルヘルス関係の研修会に参加し、研鑽を積む。**

以下に示すメンタルヘルスに関する研修会に教職員が参加し、研鑽を積んだ。

- ・ 平成28年度東海・北陸地区国立高等専門学校学生支援連絡協議会
（本郷5人、射水5人）
- ・ 全国高専学生支援担当教職員研修（本郷2人、射水2人 予定）



継続

- ・ いじめの防止等に関する普及啓発協議会に参加（本郷 1 人参加）
- ・ 自殺予防対策担当者研修会（本郷 3 人参加）
- ・ 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会（本郷 1 人参加）

・ **他の高専のメンタルヘルスを含めた学生支援体制についての情報を集める。教職員が各種メンタルヘルスや学生支援に関する研修会に参加する。**

高専機構主催の学生相談・メンタルヘルス研修会，並びに東海北陸地区学生支援連絡協議会に参加し，他高専のメンタルヘルスを含めた学生支援体制について，情報交換・収集を行った。

○

継続

・ **「東海・北陸地区学生支援連絡協議会」に参加し，意見交換，情報交換を行い，本校の相談室業務の参考とする。**

9 月開催の厚生補導主事関係会議及び学生課長会議，東海北陸地区学生支援連絡協議会に両キャンパスの相談室長，看護師が参加した。他高専の学生主事，寮務主事，学生課長，相談室長，看護師と，お互いに情報交換することによって相談室業務の参考とした。

○

継続

○

・ **両キャンパスにおいて，学生相談室の活動を充実させる。特に学生が利用しやすい相談体制を整える一環として，相談室と学生とが話し合う機会や場所を提供する。また，保護者に対しても学生相談室に関する情報を提供し，相談室を開放する。**

本郷キャンパスでは，前後期の開始時期に，学生に相談室案内を配付し周知した。また，思春期外来の医師と学校医の契約を結び，適宜，学生が医師に相談できる体制を整えている。保護者に対して，学生相談室に関する情報を学校通信やクラス担任を通じて周知連絡し，保護者も相談室を利用できるようにした。学生相談室のリーフレットを作成し，新 1 年生にはオリエンテーション時に配布した。また，障がい者に対する窓口として，学生相談室の存在を周知した。射水キャンパスでは，精神科医と学校医の契約を結び，カウンセラーと連携しながら，適切に，学生が精神科医と相談できる体制を整えた。また，本郷キャンパスと同様に，1 年生のオリエンテーション時に相談室のパンフレットを学生に配布することによって学生相談室の存在を周知した。各クラスには相談室のポスターを掲示し，相談室体制について周知した。また，保護者に対しては，4 月と 7 月に学生相談室からのお知らせを配布し，相談室が保護者にも開放されていることを周知した。

○

継続

・ 相談室のホームページを用いて、学生や保護者に相談室の情報を広く提供する。

広報戦略室と連携し、学生や保護者が相談室の情報を広く知ることができるように相談室のホームページを充実させ、改善した。

継続

・ KOSEN 健康相談室のカounselingサービスについて、学生や保護者に周知する。

校内ポスターの貼付及びHPからのリンクにより、KOSEN 健康相談室のカounselingサービスに関する周知を行っている。また、同サービスに関する機構からの配布物を学生に配布した。

○

継続

・ 両キャンパスの学生会を通して、福利厚生についての意見を取りまとめる。

両キャンパスの学生会が合同研修会を行い、合同球技大会、高専祭に関する意見交換を行う。(予定)

○

継続

・ 学生との懇談会を開催して学生の要望を直接聞き取り、学生支援改善への参考とする。

校長、副校長をはじめとする教員が、年に1回、本科学生、並びに専攻科学生と懇談する場を設け、彼らからの要望を教育環境の改善に繋ぐこととしている。

学生会と連携して各クラス代表からなる評議会を定期的に開催し、学生からの要望・意見を聴取し、行事の実施等に反映した。

学生会役員と教員の打合せを定期的に行った。

学生会と後援会との懇談会を実施し、学生支援に関する意見交換を行った。

5年生に対する学生生活調査を行った。

○

継続

・ 学生の生活環境を充実させるため、両キャンパスの生活協同組合に学生の要望が反映する体制を整備し、出来ることから実施する。

各キャンパスの学生会から生協委員を選出し、生協理事会に参加している。本年度は、両キャンパスの学生と理事が還元セールを企画・実施した。

○

継続

【中期計画】

・ 寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。

A 学生の要望を把握し、自主的学習活動を支援する環境を充実させる。

B 学生寮の生活及び学習環境を整備するとともに、寮生数の推移に合わせ留学生専用スペースや校内共同施設への転用も考慮しつつ、改修計画を進める。

C 寮生やその保護者の要望を把握し、寮生の生活指導、学寮の管理運営等の改善に努める。

【年度計画】

・ 自主的学習活動を支援する環境を整備し、充実を図る。

低学年の学生が入居している学生寮，1号館，2号館にパソコン資料室を設置し，学生達が自主的に学習できる環境を整備した。

○

継続

・ 学寮を整備し，有効活用について検討を進める。

低学年の学生が入居している学生寮，1号館，2号館にパソコン資料室を設置し，学生達が自主的に学習できる環境を整備した。

射水キャンパスでは女子寮自習室でより多くの学生が自習できるよう，環境の整備を行った。

○

継続

・ 寮食堂委託業者一括委託による食環境面の向上，物品の一括協同購入，契約などによる経費節減と環境整備に努める。

寮食堂委託業者一括委託による食環境面の向上を図っている。両キャンパス合同で非常食の一括購入を行った。本郷キャンパスでは保護者による検食会を保護者会総会にあわせ7月に実施した。

射水キャンパスでは4月に保護者会にあわせて，検食会を実施した。

○

継続

・ 保護者連絡のための定期的な発行物を活用して，学寮の状況を報告するとともに，寮生や保護者から要望を聞くために，寮生組織の役員との懇談会や寮生保護者会等を開催する。

本郷キャンパスでは，保護者懇談会，保護者会総会，並びに役員会を年2回開催している。また，年2回学寮便りを郵送している。また，寮生保護者会役員と幹部寮生の話し合いを年1回実施している。

射水キャンパスでは女子学生の保護者に毎月の外泊状況を連絡し，寮生の状況を把握していただいている。また，学寮での行事，学寮からのお知らせ等を毎月学校通信で連絡している。寮生保護者会は年1回行っている。

○

継続

・ 成績不振学生に対するチューター等の学業支援を実施する。

上級生がチューターとなり，成績不振学生への支援を定期試験にあわせて実施した。

○

継続

・ **幹部寮生研修会により他高専との交流を実施し、寮生会の運営をさらに改善する。**

10月に幹部寮生17名、教職員3名で豊田高専を訪問し、豊田高専寮生及び寮務委員会と情報交換した。



継続

【中期計画】

・ 授業料免除制度や各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、学生や保護者へ情報を提供する体制を充実させる。

A 授業料免除や各種奨学金の情報を学生や保護者に周知する。

B 授業料免除や各種奨学金の相談体制を整える。

【年度計画】

・ **授業料免除や各種奨学金の情報をHPと学校通信で周知する。**

授業料免除に関する各種情報を所定の場所に掲示し、併せてHP、並びに学校通信に掲載することにより周知徹底させた。さらに対象学生が在籍すると思われるクラスの担任へ連絡を行った。



継続

・ **新入生の保護者に授業料免除や各種奨学金の情報を周知する。**

各種情報を校内に掲示し、同時に担任を通して周知している。また、入学説明会において、各種情報を新入生保護者へ伝達している。



継続

・ **授業料免除や各種奨学金の相談窓口を充実させる。**

周知文書中に学務課、学生課の担当者を明示することにより、相談者が相談窓口を訪問し易いよう改善した。



継続

【中期計画】

・ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、学生や保護者へ企業情報、就職・進学情報を提供する体制や進路指導体制を充実させる。

A 求人情報、大学編入情報を整備し、学生や保護者に情報提供する。

B 就業体験（インターンシップ）を奨励し、進路指導に活用する。

C キャリア教育の体制を整備する。

【年度計画】

・ **両キャンパスに設置した進路指導室の機能充実を図る。**

進路指導室会議において、就職や進学に関する情勢分析を行い、適切に指導できるように、情報共有が図られた。

学生がいつでも就職や進学の情報を閲覧できるよう、情報整理を心がけた。



継続

進路指導室の機能充実として、求人者と本校の担当者が応対するスペースの設置が望まれる。

・ **卒業生や専門家、及び本校シニアフェローによるキャリアガイダンスを実施する。**

低学年からのキャリア教育の充実策として、2年生の校外研修において企業見学を取り入れ、そこで働くOBと懇談する場がもたれた。

物質化学工学科3年生を対象に、本校卒業生による企業紹介を実施した。(12月21日)



継続

・ **企業研究会を開催する。**

本校技術振興会会員企業58社が参加し、両キャンパスの学生（主に4年生及び専攻科1年生）対象に企業研究会を実施した。(1月14日) 同会には低学年、及び保護者も参加した。



継続

・ **引き続き、低学年のホームルームを利用してキャリア教育を実施する。**

就職活動前の3年時に、キャリアガイダンスを実施している。

校外研修として、2年生（本郷キャンパス）、3年生の県内工場見学を実施した。

夏季休業期間に、女子学生対象の工場見学を行った。



継続

・ **WEB求人票システム導入後の使用状況を把握し活用方法を検討する。**

求人票のデジタル化普及に伴い、本校のWEB求人票システムの使用状況の把握、その活用方法の改善について検討することとしている。



継続

・ **キャリア教育の観点から学生の職業意識の醸成ときめ細かい進路指導を行うため、学科内に4, 5年担任とベテラン教員で構成する進路指導支援チームをつくり、定期的なミーティングを持ちながら情報共有し、学生指導を行っていく。**

進路指導に関する申合せに基づき、学科の4, 5年生担任、並びに学科長が協力して、学生支援、及び求人企業への対応等を行った。

12月中旬、4年生保護者を対象に、各学科において進路説明会を実施した。



継続

【中期計画】

関係機関と協力して商船学科の船員としての就職率を上げるための取組を行う。

【年度計画】



・ 船員となったOBのキャリアガイダンスを実施する。

4月28日、機関学科35期生の村上信昭氏（イースタン・カーライナー（株））を本校に招いた。同氏から、商船学科5年生に対し、機関長および工務監督の仕事について、数多くの写真を用いてわかりやすく解説してもらった。そして、これからの就職についてアドバイスをいただいた。

11月10日、講師として全船協 及川理事（本校OB）、キャプラン（株）佐々木氏を本校に招き、商船学科生を対象にキャリア教育講演会を実施した。学生アンケートの結果から、多くの学生が、講演の内容に興味を持ち、海上技術者への就業意欲を高めたことを確認できた。船員という特殊な職種に対する学生たちの不安の解消の一助となった。

・ 五商船当番校が実施する「船員となったOBの講演会」にビデオ会議システムで商船学科の学生を参加させる。

表記講演会を計画していたが、今年度は海事人材育成プロジェクトの予算の都合で実施できなかった。

継続



修正

（6）教育環境の整備・活用

【中期計画】

総合的な施設マネジメント及び設備マネジメントの充実を図り、個性的で魅力のある教育環境の整備を図る。

A 「施設・設備の整備基本計画」を見直し、計画的な施設・設備の整備を図るとともに、効率的な運用に努める。

【年度計画】

・ 施設・設備のマネジメントの充実を図り、「施設・設備の整備基本計画」を見直し、計画的な施設・設備の整備を図る。

【本郷キャンパス】

学内営繕事業として、「職員厚生施設2階の模様替え工事」、「実習工場にある精密測定室の床補修」、並びに「共通棟2の3階にある空調設備更新」の工事を行った。また、営繕事業として「共通棟1屋上の防水補修工事」を実施した。

【射水キャンパス】

学内営繕事業として、「図書館1階PCコーナーの一部を更衣室に整備」、「教室等の壁の塗替えと掲示板の張替え」、「グラウンドの凹凸整備」、「職員宿舎の取り壊し」、「省エネ推進事業（第2体育館ステージの照明設備をLED照明器具へ更新、第1専門棟階段室に照明用人感センサーを設置し、既設照明設備はLED照明器具へ更新）」を実施した。

また、営繕要求事業として、「第1専門棟屋上の防水改修」、「第3寮棟の屋上防水補修」の整備を行った。



継続

両キャンパスの営繕事業として、「排水設備の調査業務」を実施した。

・ **キャンパスの環境美化に努める。**

教職員によってキャンパスクリーン作戦を実施した。

計画的に校内の樹木剪定を行った。

また、本郷キャンパスでは学生の環境美化活動を年2回行っている。



継続

【中期計画】

- ・ 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境を確保するため、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図り、施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進めるとともに、その有効利用を図る。併せて、女性や身体に障害を有する者にも配慮する。

A 既存設備を有効に活用するため、土地、建物及び主要設備の点検評価体制を整備する。

B 安全で快適な教育環境とするために、施設の点検評価を行い、整備の緊急度が高い施設から順次整備に努める。

C 省エネ、光熱水料費の縮減に効果的な施設・設備の整備に努める。

D 授業等に支障のない範囲で地域住民に施設を開放し、活用を図る。

【年度計画】

- ・ **施設の点検評価を継続的に実施し、緊急度の高い施設整備について、概算要求・営繕要求を行う。**

施設・設備整備委員会において、施設の点検評価を実施し、施設・設備の整備基本計画に基づき、概算要求順位、営繕要求順位について審議し決定している。



継続

- ・ **省エネ化対策方針に基づき省エネ、光熱水料費の縮減に効果のある施設・設備の整備について検討する。**

【本郷キャンパス】

職員厚生施設の改修工事で照明設備を全て省エネ対応のLED照明に取替えた。

【射水キャンパス】

第2体育館ステージの照明設備をLED照明器具へ更新した。また、第1専門棟階段室に照明用人感センサーを設置し、既設照明設備はLED照明器具へ更新)」を実施した。



継続

- ・ **環境内部監査を効率的に進めると同時に、富山高専の特色を生かしたエコ活動を行う。**



本校の特色を生かしたエコ活動として、本郷キャンパスでは寮生による近隣町内の清掃活動、射水キャンパスでは学生による海岸清掃、そして、両キャンパス教職員によるキャンパス・クリーン作戦を実施した。

学校内で回収した古紙のリサイクルに積極的に取り組んでいる。

削除

・ **PCB 廃棄物の処理は、平成 29 年度処分に向けて適切に保管する。**

【本郷キャンパス】

特別管理産業廃棄物保管場所である車庫にて、PCB 廃棄物を厳重に保管している。

【射水キャンパス】

特別産業廃棄物保管庫にて、PCB 廃棄物を厳重に保管している。

○

修正

【中期計画】

学生・教職員の健康管理・安全管理を徹底する。

A 事故件数ゼロを目指す。

B 学生・教職員の健康管理等の体制を整備する。

C 学生・教職員に対する労働安全衛生法、健康増進法、学生保護法等に基づく健康管理・安全管理を実施する。

(ア) 施設設備及び作業現場の安全管理について定期的に評価するとともに、改善状況を公表する。

(イ) 毒物・劇物の管理方法を検証し、改善が必要なものについては改善状況報告を義務付ける。

(ウ) 安全管理に関する講習会、研修会等を開催するとともに、外部の講習会等に教職員を派遣し、安全思想及び技術の啓蒙を図る。

(エ) 作業環境の安全・改善に結びつく事案の達成に対し顕彰する。

D 教職員がバランスの取れた勤務体系となるために日常活動の見直しを図る。

E 学生・教職員に対する人権擁護・ハラスメントの防止等のため、人権擁護等の啓発に関する講演会、研修会の開催及び相談体制を整備する。

【年度計画】

・ **安全衛生委員会において、教職員の健康管理・安全管理を徹底するための取組みを実施する。**

A **定期健康診断等の実施結果により健康状態を把握する。**

B **安全管理者、衛生管理者による職場点検を徹底し、指摘事項の改善及び件数の減少に努め、改善結果を公表する。**

C **教員・技術職員の安全教育に関する能力アップを図るため、各種の研修会・講習会に積極的に参加させる。**

○

継続

D 産業医による健康相談を実施する。

安全衛生委員会において、教職員の健康管理・安全管理を徹底するための取組みを実施した。

- A 定期健康診断等の実施結果より健康状態の把握に努めた。
- B 安全管理者、衛生管理者による職場点検を徹底し、指摘事項の改善及び件数の減少に努め、改善結果を公表することとした。年間を通して、月 1 回校内全域巡視を実施するとともに、各キャンパスにおいて、年 2 回校長、安全衛生委員会委員による校内巡視（本郷：4 月 26 日、10 月 11 日、射水：5 月 9 日、10 月 4 日）を行い、改善指導を行った。
- C 教員・技術職員の安全教育に関する能力アップを図るため、各種の研修会・講習会に積極的に参加させた。
- D 作業環境の安全・改善に結びつく提案や試行に対する表彰制度について検討中である。
- E 各キャンパスで毎月 1 回産業医による健康相談を実施し、教職員の健康維持に努めた。
また、今年度から実施している、ストレスチェック制度の運用体制を整備し、教職員へ周知した。

そのほか次の取り組みを行った。

- ・安全衛生管理計画の策定
- ・健康診断の実施（本郷：6 月 13 日、射水：9 月 2 日）
- ・インフルエンザワクチン集団接種の実施
（本郷：11 月 22 日、射水 11 月 22 日）
- ・救命救急講習会の実施
（本郷：8 月 1 日、射水：6 月 14 日）

（学生関係）

定期健康診断等の実施結果により健康状態の把握に努めた。今年度は新入生に対して 4 種抗体検査を実施した。

・ 学生委員会、学生相談室、保健室において、学生の健康管理を徹底するための取組みを実施する。

学生主事室、学生相談室、保健室が情報共有し、学生の健康管理の徹底に努めている。

・ 薬物・劇物の購入、使用廃棄までの適正な取扱や管理体制をこれまで以上に徹底し、改善が必要な場合は指導する。

毒物・劇物の定期検査については、12 月～1 月中に実施する予定である。検査は、事前に受払簿の提出を求め、購入及び廃棄リストと照合し、管理状況を確認する。

○

継続

○

継続

○

・ 人権擁護，ハラスメント防止等のため，研修会等の計画的な実施を行う。

ハラスメント防止等のため，新任教職員に対する研修を実施するとともに，相談窓口の周知，防止啓発を行った。

継続

・ 教職員のメンタルヘルスのカウンセリング体制の充実化を進める。

今年度から義務付けられるストレスチェック制度の実施に対し，本校における実施体制を整備した。

○

継続

【中期計画】

男女共同参画推進のための環境整備を進める。

【年度計画】

・ 女性スマイル・アップ推進委員会を中心に，女性教員の増加を進めるための環境整備を行う。

女性スマイル・アップ推進委員会を中心に教職員ミーティングを開催して，環境整備などについて議論を行った。

○

修正

2 研究や社会連携に関する事項

【中期計画】

- ・各教員の研究活動を促進し、その成果を教育に反映させる。
- ・学科、キャンパスを越えたプロジェクト研究を推進する。
- ・科研費の申請率を 80%以上にする。科研費採択件数については新規採択件数 10 件以上／年を目指す。

【年度計画】

・優れた外部教員を招へいし、本校教員の研究力、並びに外部資金獲得能力の向上を図る。

大学を定年退職された三名の教員を特命フェローとして雇用し、本校の研究グループ、または企業との共同研究グループに加わっていただき、本校教員の研究力強化と外部資金獲得に繋ぐことができた。さらに、文部科学省の科学研究費への申請に当たり、特命フェローの方々から各申請書に対し適切なアドバイスをいただいた。これらのアドバイスは申請書の改善に非常に有効であった。

タイの KMITL と共同主催の ICET2016, JointCAST など、本校が主催する国際的行事にあわせて、外国人研究者が本校を訪問した。これらの機会を利用して、訪問者と本校教員との間で、研究に対する討論や共同研究の相談を行うことができた。以上の経験は、教員が国際会議等において研究発表し、また国際共同研究を遂行する上で有効であった。



継続

・研究環境の改善策を実施するとともに研究活動を推進させるための支援を行う。

毎年、教員が出す研究費の申請の中で、将来発展が見込め、有望な申請に対し、校長裁量経費によって支援している。研究期間が終了した時点で、成果報告会を 2 キャンパス合同で実施している。

企業からの共同研究を受ける際、一人の教員が共同研究を担当する場合もあるが、本年度からは、複数の教員が共同研究を担当する方向へと変えた。この変更は教員の意識改善に有効であり、共同研究の件数の増加に有効と思えた。



継続

・教職員による研究会の開催を支援する。

タイの KMITL と共同主催の ICET2016 に対し学校全体の取り組みとして支援した。その結果、多数の教職員、学生が参加し、また他の高等教育機関からの参加者も多数あった。



継続

・外部資金獲得のための講演会を開催するなど、外部資金獲得のための支援を計画的に行う。

毎年、ソリューションセンターが中心となって、製品開発セミナーを本校にて開催している。同セミナーは、本校の技術振興会企業等、多数の地元企業が参加する中で行われるので、本校が開発した各種技術、機械を地元企業に知っていただく良い機会となっている。このような努力は、技術振興会企業を増やすこと、そして本校と企業の間で共



継続

同研究を開始することに繋がる。

また、イノベーションセンターが中心となって、グリーンイノベーション研究会を毎年開催し、本校と地元企業との共同研究を始めるきっかけを作っている。

富山第一銀行奨学金の成果発表会に本校教員が参加し、研究成果の発表を行っている。本校教員の研究力の高さをアピールできる良い機会となっている。

【中期計画】

- ・ 本校の知的資源の活用とともに、地域社会のニーズ等の情報収集を行い、研究開発プロジェクト形成を促進する。
- ・ 地方公共団体との連携の強化を図る。
- ・ 共同研究等については、30件/年を目指す。
- ・ 地域イノベーションセンターにおいて知的財産サイクルをマネジメントできる人材を育成し、知的財産の一元管理を行う体制を整備するとともに、東海北陸地区の高専が連携して知的財産戦略を展開できる体制を整備する
- ・ 特許等出願については、6件/年を目指す。
- ・ 製品開発・社会貢献本部において、企業のニーズに応える製品開発を進める。
- ・ 製品開発・社会貢献本部において、企業のニーズに応える企業技術者教育を実施する。
- ・ 製品開発・社会貢献本部において、企業との連携のもと実践的教育を実施する。

【年度計画】

・ 企業と連携し、製品開発のための実践的教育を企画する。

製品開発に関するセミナーを開催して、企業からの参加者と製品開発技術に関する意見交換を行った。

専攻科全学生に対し、機電工業会からの寄付授業「地域産業学」を実施している。講師は企業から派遣された技術者であり、実際の製品開発に関する実践的教育を実施できた。企業人をシニアフェローとして本校に迎え、学生が行う研究発表時に意見、アドバイスを受けることにより、研究を実践的、並びに客観的に眺める視点を指導できた。

・ 地域企業との連携を促進するための方策として、グリーンイノベーション研究会開催を検討し実施する。

イノベーションセンターが中心となって、グリーンイノベーション研究会を毎年開催している。県内産学官と連携を図り、本校と地元企業との共同研究、共同開発、ビジネスを始めるきっかけを作っている。



継続



継続

・ 地域で開催される交流会・協議会や研修会・研究会に積極的に参加し、地域社会のニーズ等の情報収集を行う。

地域で開催された展示会や交流会に出展参加し、地域社会のニーズ等の情報収集を行った。本年度は、富山高専が主管校となり「とやま産学官金交流会 2016（11/29）」を開催し、本校の研究シーズを出展した。

東海北陸地区国立高専のテクノセンター長等会議において、地域貢献における連携の在り方について協議した。東海北陸地区の国立高専が、11/16～18日に名古屋で開催されたTechBizExpoに共同出展し、また、今後、エコプロダクツにも共同出展する予定である。



継続

・ 県内の産学官による研究会の情報を教員に提供し参加を支援する。

県内の産学官の研究会などの情報を教員に提供し、発表と参加を促進した。

・ 県内地方公共団体との連携事業の企画について検討を進める。

富山市から小水力発電装置の委託事業を実施した。

学生会が、射水市主催の学生のまちづくり推進会議学生会議に参画し、政策提案コンテストの運営に協力した。射水市教育委員会が主催する市内中学生のための土曜塾、夏休み補講の講師として協力した。

富山県の高等教育機関、地方自治体等が加わり、COC+の事業活動を実施している。



継続



継続

・ 富山県の公設研究機関（工業技術センター、農林水産総合技術センター等）との連携について検討を行う。また富山県新世紀産業機構からの情報収集や連携について検討を行う。

富山県の工業技術センターや農林水産総合技術センターとの連携を促進するための方策について検討した。



継続

・ 東海北陸地区高専間での合同セミナーの開催や相互の講師派遣等を促進し、地区の連携活動を強化する。

東海北陸地区高専間、第3ブロック高専間で分野別研究グループ検討会において、合同セミナーの開催を模索する一方、各高専で既に行われている研究・地域連携活動において、教員・コーディネーターの相互派遣を検討している。



継続

・ 東海北陸地区国立高専知的財産協議会を開催し、今後も協議の場として有効に活用する。

平成23年度に開設・公開した、東海北陸地区高専の持つ知財情報を公開するためのHPについて、さらに内容の充実を行い、知財情報の有効活用や特許等出願の促進を図る。

東海北陸地区高専の知財の有効活用に向け、テクノセンター長等会議を中心に検討、連携を行っている。



継続

- ・ 東海北陸地区高専が現在保有する知財の今後の維持管理の方針策定に資するため、知財の評価法に関する情報収集を行い、上記協議会などを通して共有する。

東海北陸地区高専の知財の有効活用に向け、テクノセンター長等会議を中心に検討、連携を行っている。



継続

- ・ 製品開発・社会貢献本部の各センター等の施設設備の充実を検討する。

製品開発・社会貢献本部の各センター等の施設設備の充実について検討し、校長裁量経費にて小水力発電プロジェクトにおいて使用する、シミュレーション用パソコン等を導入予定である。



削除

【中期計画】

- ・ 技術科学大学との連携体制を整備する。
- ・ 技術科学大学との応募型「高専連携教育研究プログラムによる共同研究」及び「高専・技術科学大学教員研究集会」を通じて、研究交流を活発化し、その成果の知的財産化を促進する。

【年度計画】

- ・ 近隣大学、技術科学大学との教育研究連携活動を促進する。

富山県内の高等教育機関で構成されるコンソーシアム富山への参加を通じて、授業の提供、授業の単位の互換を進めた。また、教員の研究力向上のために、近隣大学教員との共同研究、外部資金への共同申請、並びに学生、教員の交流を推奨している。

本校教員で博士号未取得者が、現在富山大学博士課程に在学中である。博士号取得とその後の共同研究、並びに学生交流の推進に繋がるよう、同大学との交流を推進している。

本科と専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて、長岡、豊橋両技術科学大学と引き続き協議することとしている。



継続

- ・ 技術科学大学との応募型「高専連携教育研究プログラムによる共同研究」及び「高専・技術科学大学教員研究集会」を通じて、研究交流を活発化する。

技術科学大学とは各種事業への共同申請などを通じて、連携を推進した。

三機関連携プロジェクトによる教育研究助成により、長岡技科大教員及び他高専教員との教育研究交流を行った。



継続

【中期計画】

- ・教員のシーズを企業や地域社会に広報するための体制を充実する。

【年度計画】

- ・ ソリューションセンターにおいて、地域中小企業が要望する製品の開発を行い、外部資金の獲得を目指す。これら活動を通じて、地域社会において信頼される高等機関と認知されるよう努める。企業の要望を聞くための様々な機会、例えば5軸加工装置などの説明会、講習会を企画する。

7月28日に「製品開発セミナー」を開催し、地域社会へ理解を深めてもらう機会とした。

企業が要望する自動走行芝刈機、ドリル自動計測技術、炭素繊維ネットなどの製品開発に関する事業を実施中。

- ・ 企業向けのWebシーズ集を充実させ、共同研究・受託研究のための情報を発信する。

教員紹介2016を製本して、有効活用を図った。

- ・ 作成したシーズ集及び英語版パンフレットを有効に活用し、教職員シーズを企業や地域社会に広報する。

技術振興会総会、並びに製品開発セミナーを通じて、本校教職員が有する研究シーズを企業、地域に発信した。

海外の研究機関・高等教育機関との連絡を密にし、本校教員の英文研究テーマリストを用いて研究・教育連携を推進した。

【中期計画】

- ・小中学校の理科教育支援の充実を図る。
- ・社会のニーズに合うよう公開講座の内容を充実させ、計画的に企画実施する。
- ・外部人材を活用するシニアフェロー制度に、両キャンパスの卒業生を積極的に参加させ、ネットワークを強化し、地域連携事業の活性化を図る。”

【年度計画】

- ・ 公開講座、出前授業、出前講座等を実施し、積極的に小中学校の理科教育支援を実施する。

小中学校の理科教育支援を積極的に進めるために、小中学生以下対象の公開講座を実施、科学技術のおもしろさ・楽しさを知ってもらうための小学校、中学校への出前授業を実施している。



継続



継続



継続



継続

・ 社会や企業の人材育成ニーズを調査し、企業と連携した「協働教育」として新たな企業人材育成プログラムを引き続き実施する。

社会人を対象として、企業人教育・企業人セミナーの実施、県民カレッジと連携した社会人対象の公開講座の実施、富山大学地域連携推進機構との共催事業として、県内のエンジニアを対象とした大学院レベルの専門的基礎知識を提供する事業を実施している。これらの事業は、継続的かつ計画的に行われた。



継続

・ 社会ニーズに合った内容の公開講座を企画・実施する。特に小中学生向けの公開講座は夏休み中のオープンキャンパスの期間に実施し、受講者がより参加しやすい形にしてゆく。社会人向けの公開講座では積極的に県民カレッジとの連携を図り、より広範な広報活動を行う。包括協定を結んでいる市と連携した公開講座が実施できるよう検討する。

受講者がより参加しやすいよう、オープンキャンパスの開催時期を設定した。本年度の、中学生以下を対象とする公開講座・出前授業、並びにオープンキャンパスにおいて開催した講座数は29、参加者は1473名であった。

ソリューションセンターを中心に社会人向けの公開講座を開講した。本校から23件のセミナー案を地元企業および住民に案内したところ、企業から4件の希望があった。これを受け、企業人教育・企業人セミナーを2件実施した。



継続

・ シニアフェロー等の外部人材が参画する研究会を企画検討する。

シニアフェローが参画する研究会を引き続き企画検討することとしている。その一つとして、学生が行う研究発表時にシニアフェローから意見、アドバイスを受けることにより、学生に、研究を実践的、並びに客観的に眺める視点の重要性を指導できた。



継続

・ 企業人向けの研究会を企画実施していく。

企業人向けの研究会を順次企画実施していくこととしているが、本年は企業サイドからの要望を聞くための、会合の場を増やすことに努めた。例えば、国際会議、技術振興会総会、産学官金交流会などにおいて、本校の研究力、並びに専攻科生の能力を企業にアピールし、企業からの要望を聞いた。



継続

・ 同窓会を始めとして本校独自のネットワークシステムであるシニアフェローの活用を計画する。

シニアフェローネットワークの活用について検討した。また、本科並びに専攻科におけるキャリア教育に、シニアフェローの協力が得られないか等について検討した。



継続

3 国際交流等に関する事項

【中期計画】

- ・海外の教育研究機関と連携を密にして、国際シンポジウム等を開催し、学生や教員の国際交流を促進する。
- ・海外インターンシップ制度の充実に取り組む。
- ・海外留学制度の充実に取り組む。

【年度計画】

- ・ 海外の交流提携を結んでいる教育機関と国際会議を開催する等の積極的な交流促進を図る。

タイのキングモンクット工科大学ラカバン校（KMITL）との工学と技術に関する国際会議（ICET2016）を開催するなど、海外教育機関との交流を継続して推進した。3回目となる ICET2016 を富山で開催し、156 名が参加した。会議ではキーノート 2 件、研究発表 19 件、ポスター発表 57 件が行なわれた。学外から、KMITL18 名、他機関 9 名、企業 18 名の参加があり、活発な意見交換が行われた。

○
継続

- ・ 海外の交流協定校との海外留学、並びに異文化実習をより効果的なものとするため、昨年度の実施状況を元に参加者に対する事前学習を強化する方策を計画し、さらなる充実を図りながら実施していく。

各学科、専攻科とも協力し、トビタテ！留学 JAPAN プログラムへの応募指導等を通じて、事前学習の強化を行った。

○
継続

- ・ 専攻科生や本科生を対象とした海外インターンシップの拡大を検討するとともに就労体験を取り入れた専攻科用の海外インターンシッププログラムの環境を充実させる。

これまでのタイ・マレーシアでの企業インターンシップに加え、今年度新たにタイにおける企業インターンシップ、並びにハンガリーでのアカデミックインターンシップを実施するなど、充実を図った。また、今後の内容充実のための折衝を各協定締結校等と行った。

○
修正

- ・ 海外インターンシップの事前学習のための環境を充実させる。

本校特命フェローに留学希望の学生に対する指導を依頼する等、事前学習のための環境を充実させた。

○
継続

- ・ 高専機構が主催する国際交流事業に積極的に参加する。

国際交流室長・国際交流センター長会議への出席、機構からの依頼による訪問客の受入れなど、機構の国際交流事業に積極的に参加した。

○
修正

【中期計画】

- ・留学志望者が容易に本校の情報を得られるよう、ホームページの充実を図る。
- ・学生寮の留学生居住領域の環境を整備して、受け入れ体勢の拡充の対応を進める。
- ・留学生交流促進センターとの連携を強化し、留学生の受け入れを促進する。

【年度計画】

・ 学生寮の留学生居住領域の環境整備について検討を進める。

短期留学生のための学生寮の居住区域が足りない場合の対策として、職員厚生施設を学生受け入れができるよう改装し、環境整備を進めた。

○

継続

・ 海外の提携校とのショートステイ、ショートビジットを充実させる。

- ・シンガポール テマセクポリテクニクからのショートステイ
- ・シンガポール ナンヤンポリテクニクのショートステイ
- ・タイ キングモンクット工科大学ラカバンからのショートステイとショートビジット
- ・英国北アイルランド SERCとのショートステイ・ショートビジット
- ・米国ハワイ KCCへのショートステイ・ショートビジット

シンガポールのテマセク及びナンヤンの両ポリテクニク、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から短期留学生を受け入れた。受け入れ先の各キャンパスの寮において、チューターをつけ寮行事に参加させた。また、ウェルカムパーティーなどを実施した。また、本校学生が、英国 SERC、並びに米国 KCC へのショートビジットを行った。

○

修正

【中期計画】

留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる体験研修旅行を企画・実施する。

【年度計画】

・ 北陸地区の他高専と連携し、留学生の体験研修旅行を実施する。

北陸地区高等専門学校留学生研修を本校（本郷C）で企画・実施した。留学生 30 名と引率教職員 8 名が、八尾そば打ち体験、並びに YKK 見学を実施した。

◎

継続

・ 短期留学生の受け入れを増大し国際交流を推進する。

今年度短期留学生の受け入れ人数は 19 名であった。この数は寮の受け入れ人数の上限であり、次年度には何らかの対策が必要である。

○

削除

4 管理運営に関する事項

【中期計画】

- ・戦略企画会議を中心にして，戦略的な方針を提案する。
- ・運営審議会での確に意思決定を行う。
- ・校長のリーダーシップの下，迅速かつ責任ある意思決定を実現する。
 - A 校長の補佐体制を整備し，学校の運営について企画・検討する。
 - B 校内の各種委員会を整理統合するとともに，諸規定を整備し，迅速かつ効率的な運営を行う。
- ・資源配分は，戦略的かつ計画的に行う。
 - A 校内予算配分については，基盤的教育研究経費を確保しつつ，戦略的な配分方法を検討し，円滑な執行を行う。

【年度計画】

・ 戦略企画会議において，戦略的な学校方針について検討し，学校運営に反映させる。

戦略企画会議を月 1 回定期的に開催し，戦略的な事業の実施，学校方針に関わる問題に関して検討を行い，学校運営に反映させている。

外部資金獲得方策について，WG を設置するなどして検討し，今年度の科研費の申請件数は昨年比大幅な増加となった。

学力水準のより高い志願者確保するための方策として，富山市中学校長会の役員との意見交換会を実施した。また，県内中学校の進路指導教員との意見交換会を実施した。

海外提携校との学生・教職員交流を実施するため，具体的方策を提案し検討した。

教育カリキュラムの方針，学習単位，卒業研究単位等の教育のレベル維持のための方向について検討し，下部組織の WG で具体案を検討した。

・ 運営審議会での確な意思決定を行う。

運営審議会を月に 1 回定期的に開催し，学校の戦略方針に基づく意思決定機関として，学校の管理運営及び規則等の制定・改廃等の審議，決定を行った。

・ 全教員会議及び両キャンパスの教員会議で学校方針の共有を図り，学校運営の的確な実施を進める。

全教員会議及び両キャンパスの教員会議で学校方針の共有化を図り，学校運営の的確な実施を進めた。特に，両キャンパス教員を対象とした全教員会議では，キャンパス共通の諸問題について協議を行った。また，各キャンパスで月 1 回定期的に教員会議を開催し，校長，副校長及び各主事からの報告により，学校運営の的確な実施を促した。



継続



継続



継続

・「予算委員会」において予算の戦略的、計画的な配分を行う。また、予算の執行状況を教員に周知し適正な執行に務める。

予算委員会では、校長を委員長とし、学校の運営方針が、校内予算により反映できる制度を整備した。校内予算の編成にあたっては、第2期中期目標期間の運営費交付金算定ルールに基づく効率化係数を踏まえ、対前年度比△2%以上の節減を図りつつ、校長のリーダーシップの下、機動的・戦略的な学校運営を行うために必要な予算を確保した。また、予算の執行状況を定期的に教員へ周知し、適正な執行に努めている。

○

継続

・校長裁量経費等を、学校の方針に基づき、費用対効果の高い事業に対して執行する。

校長裁量経費は、校長のリーダーシップにより教育方法改善プロジェクト、研究プロジェクト、全校単位あるいは学科単位の行事、学生の実験・実習の基盤をなす設備の整備、学校運営や環境改善等に関する経費などへ重点的に予算配分を行っている。

○

継続

・学生、保護者及び教職員の意見を取り入れるための「意見箱」(Web版及び木箱)を活用する。

学生、保護者及び教職員の意見を取り入れるための「意見箱」(Web版及び木箱)を活用してきた。意見箱に寄せられた意見については「広聴室」で整理区分を行い、校長へ報告を行い、関係部署(各主事、事務部各課)と調整し、対応した。

○

継続

【中期計画】

- ・外部有識者による意見を学校運営に適切に反映させる。
- ・東海・北陸地区及び中部日本海高専会議で、学校の管理運営の在り方について検討を進める。
- ・「教員研修」や「管理職研修」に積極的に参加する。

【年度計画】

・外部有識者による運営諮問会議を開催し、年度計画等を中心に学校運営に関し意見を伺う。

学外の有識者12名で構成する運営諮問会議を年度内2回(8月、2月)開催し、年度計画及びその実施状況について、教育研究活動、地域連携活動、学校運営の観点から助言、指導を受け、その内容を運営審議会へフィードバックし各担当部署で改善策を検討後、実施している。学校の将来に係る課題は、戦略企画会議で検討している。

○

継続

○

・ **第3ブロック校長会議，東海・北陸地区高専校長会議及び五商船高専校長会議で，共通する学校運営の課題等について協議する。**

第3ブロック校長会議，東海・北陸地区高専校長会議，並びに五商船高専校長会議において，学校運営の共通課題等について協議した。

継続

・ **高専機構が主催する管理職及び教員に対する研修等に積極的に参加する。**

高専機構が主催する管理職及び教員に対する研修等に積極的に参加した。
必要に応じて，FD研修会等において，参加者から研修内容について報告してもらい，教職員間の情報共有に努めた。28年度の参加実績は下記の通りである。

() 内の数は参加人数

初任職員研修会 (4人)

新任教員研修会 (5人)

教員研修(管理職研修) (1人)

中堅職員研修会 (4人)

アクティブラーニングトレーナー教員研修会 (4人)

○

継続

・ **本校企画のSD研修を行う。**

新任職員研修を行い，職務遂行上必要な知識を与え，高専職員として求められる役割・立場を明確にさせた。(4月1日)

技術職員を対象に講演と演習・実習による研修会を行い，相互理解を深め，職務の充実を図った。(7月11日，3月13日)

○

継続

【中期計画】

・ 事務の電子化，合理化，アウトソーシングを促進する。

A 機構による一元的な共通システムに基づき，業務手順・処理内容の見直し・マニュアル化を推進する。

B 情報システムを見直し，情報の一元化，内容及び手続きの簡素化を図り，使いやすくなりやすいシステムとするとともに，ペーパーレス化を推進する。

【年度計画】

・ **高専機構の業務改善委員会等からの改善に関する意見等の提出要請には積極的に対応し，WG等の委員として事務職員の派遣要請がある場合は積極的に派遣する等の協力を進める。**

東海北陸近畿地区高専間で事務職員を対象としたテーマ別勉強会に参加して高専間の情報共有を行い，業務改善や業務の効率化を検討した。

○

継続

- ・ 高専機構による事務マニュアルの統一化，作成について積極的に意見を提出し，学校内での実施を推進する。

高専機構による事務マニュアルの統一化，作成について積極的に意見を提出し，学校内での実施を推進した。

○

継続

- ・ 事務情報企画・推進室において事務情報のシステム化の企画・推進及びシステムの維持管理を行う。

Windows XP のサポート終了に伴い事務用 PC の更新を実施し，更新後のサポートを行っている。

○

継続

【中期計画】

法人の課題やリスクに対し組織一丸となって対応できるよう，研修や倫理教育等を通じて全教職員の意識向上に取り組む。

【年度計画】

- ・ 法人の課題やリスクに対し組織として対応できるよう，情報を共有し，職業倫理・法令順守意識の向上を図る方策に取り組む。

校長は，運営審議会，教員会議において，高等教育機関，並びに高専機構が抱える諸課題等について，説明をし，情報共有を図っている。

○

継続

- ・ 危機管理委員会を定期的開催することで，危機管理の対応を統括する。

危機管理委員会を定期的開催し，情報共有を図るとともに，危機の未然防止策について審議している。

○

継続

【中期計画】

法人本部の行う監査等に積極的に協力する。

【年度計画】

- ・ 校内監査は，牽制体制を十分確保して実施する。また，監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等は，適切に対応する。

公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく校内監査は，公的研究費に関する内部監査マニュアルに沿って 9 月に実施した。

○

継続

○

・ 公的研究費のガイドラインに対する取組を推進する。

新任教職員研修において、予算執行及び物品管理に関する留意事項について説明した。

継続

【中期計画】

平成 23 年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を徹底し、必要に応じて本再発防止策を見直す。

【年度計画】

・ 校内監査は、牽制体制を十分確保して実施する。また、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等は、適切に対応する。

公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく校内監査は、公的研究費に関する内部監査マニュアルに沿って 9 月に実施した。

○

継続

・ 公的研究費のガイドラインに対する取組を推進する。

新任教職員研究において、予算執行及び物品管理に関する留意事項について説明した。

○

継続

【中期計画】

事務職員及び技術職員の資質向上のため、文部科学省や高専機構主催の研修会に積極的に参加させる。

A SD 研修や企業への派遣研修などの職員研修を進める。

B 事務職員及び技術職員の表彰制度を活用する。

【年度計画】

・ 本校企画の SD 研修を行う。

新任職員研修を行い、職務遂行上必要な知識を与え、高専職員として求められる役割・立場を明確にさせた。(4 月 1 日)

技術職員を対象に講演と演習・実習による研修会を行い、相互理解を深め、職務の充実を図った。(7 月 11 日, 3 月 13 日)

○

継続

・ 情報セキュリティに関する研修会を実施する。

両キャンパス教職員を対象とした情報セキュリティ研修を 3 月 10 日に実施予定である。

○

継続

- ・ 高専機構，国立大学法人，並びに地方公共団体等が開催する事務等研修会に，職員を積極的に参加させる。その研修成果等について他の職員への共有化について検討する。

情報化要員の資質向上を図るため，国立大学法人等情報化要員研修へ職員を参加させ，図書館情報センター会議にて研修報告を行った。

また，職員の専門的知識・手法の習得，資質・能力の向上，意識改革を図るため，東海・北陸地区国立高等専門学校職務勉強会に職員を参加させ，事務職員間の交流を行った。

○

継続

- ・ 教職員表彰要項により表彰制度の実施を進める。

本校教職員表彰の制度に基づき，教育，研究，地域連携，学生指導及び業務改善等の分野で特に顕著な功績をあげた者を，両キャンパスの教員が参加する全教員会議の場で表彰した。

○

継続

【中期計画】

事務職員の資質向上のため，国立大学法人などとの人事交流を図るとともに，必要な研修を計画的に実施する。

A 地域の国立大学法人等との人事交流を促進する。

【年度計画】

- ・ 地域の国立大学法人等との人事交流を積極的に進める。

引き続き，地域の国立大学法人等との人事交流を積極的に進めた。

○

継続

【中期計画】

業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進する。

【年度計画】

- ・ 情報セキュリティ研修会の実施，計画的に機器の更新を行うなど，業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を引き続き適切に推進する。

両キャンパス教職員を対象とした情報セキュリティ研修を3月10日に実施予定である。
(再掲) また，事務用サーバや事務用PC等を計画的に更新し，併せてソフトウェアのバージョンアップなど，引き続き情報セキュリティ対策を実施した。

○

継続

- ・ 本郷キャンパスと射水キャンパスの情報ネットワークシステムについて検討し改善する。

平成30年度に計画されている高専統一ネットワークシステムの導入に向け，両キャンパスで情報ネットワークシステムが同じように使用できるようネットワーク環境の整備を継続実施している。

○

削除

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

【中期計画】

- ・ 運営費交付金の対象業務につき、教員の給与相当額等を除いて、中期目標の期間中、毎年度 1%の業務の効率化を図る。
- ・ 管理業務の合理化、人員管理の適正化等により、固定的経費を節減する。
 - A 業務委託内容等を見直すとともに光熱水料等の節減を教職員及び学生に徹底する。
 - B 執行状況の点検・分析を行い、経費を抑制する。
 - C 教員の授業負担を見直し、非常勤講師経費の縮減を図る。
 - D 経費の縮減になる契約業務の効率化・合理化を図る。

【年度計画】

- ・ 一般管理費 3%、その他の経費 1%の効率化係数達成に向けた取り組みを進める。
一般管理費 3%、その他の経費 1%の効率化係数達成に向け、校内当初予算配分において、事務運営費等は、前年度比 5%の減額配分とした。
- ・ 業務委託内容の見直しを進め、両キャンパスで統一している業務委託の実施を継続し、固定的経費縮減を進める。
警備業務、清掃業務、燃料油購入、複写機賃貸借等の契約において両キャンパス一括の契約を実施し、固定的経費縮減を図っている。
- ・ 定期的に経費執行状況の把握を行い、予算の早期執行と適正使用並びに光熱水料等の節減とその実行を教職員へ周知徹底する。
予算の執行が年度末に集中することが無いよう執行額を適切に把握し、計画的・効率的に早期執行するよう周知した。
- ・ 両キャンパスでの有志事務職員によるキャンパス・クリーン作戦の計画的な実施により、キャンパス整備経費の縮減を図る。
教職員を対象に 7 月から年 4 回でキャンパス・クリーン作戦を実施し、キャンパス内の境整備に係る経費の縮減を図る。
- ・ 非常勤講師経費の縮減を図る。
平成 29 年度の授業担当の見直し等を行い、平成 28 年度と比して平成 29 年度非常勤講師経費の縮減を図る予定。

○

継続

○

継続

○

継続

○

修正

○

継続

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画）

【中期計画】

科学研究費補助金や寄付金等の外部資金獲得に積極的に取り組み自己収入の増加を図る。

- A 科学研究費補助金の新規獲得のための講習会を開催するなど対策を実施する。
- B 地方公共団体や民間企業との受託研究、共同研究などの取組を積極的に推進する。
- C 学生の奨学援助や国際交流のための寄付金を募集し、基金創設を図る。
- D 製品開発本部において、企業のニーズに応える製品開発を進める。
- E 製品開発本部において、企業のニーズに応える企業技術者教育を実施する。”

【年度計画】

- ・ **製品開発・社会貢献本部において、企業からの要望に応じて製品開発を行い、その対価を外部資金として受け入れる。協力教員にはその一部を研究費として還元する。**

中小企業の製品開発を支援するために平成 26 年に設立した製品開発本部を、平成 27 年度は組織集約化のため、製品開発社会貢献本部に改組し、ソリューションセンター、イノベーションセンター、国際交流センターの 3 つのセンターを設置した。ソリューションセンターでは、企業が要望する製品開発を支援した。また製品開発に関するセミナーを開催して、製品開発・社会貢献本部の活動内容について企業に説明を行った。これまでに 4 件の受託研究を受け入れた。

技術振興会企業数の増加に伴って増えた会費を製品開発・社会貢献本部の活動費に有効に使用できるよう、工夫した。

- ・ **製品開発・社会貢献本部において、企業からの要望に応じて企業人教育を行い、その対価を外部資金として受け入れる。協力教員にはその一部を研究費として還元する。**

企業における技術者教育を支援するために、本校教員が企業に出向いて、企業が要請した各種セミナーを実施した。その対価を外部資金として受け入れ、協力教員にはその一部を研究費として還元した。

- ・ **外部資金獲得者及び応募者へのインセンティブ付与制度の確立を進める。**

外部資金獲得者及び応募者へのインセンティブ付与制度の確立について、26 年度から間接経費等の配分等について改善を行っている。28 年度も引き続き実施した。

- ・ **製品開発・社会貢献本部において、外部資金獲得に向けたバックアップ体制の確立を図る。**

製品開発・社会貢献本部において、外部資金獲得に向けたバックアップ体制の確立を種々図った。

研究の高度化、並びに共同研究の推進のため、定期的にコーディネーター会議を開催

○

継続

○

継続

○

継続

○

継続

し、コーディネーターが受け付けた企業からの技術相談案件、共同研究申し込み案件を、専門性を考慮し適任の教員に担当を依頼した。

技術振興会の予算の一部をコーディネーターの雇用経費に充てるなど、工夫した。

・ **学生への奨学援助の充実や学生の国際交流活動の促進に資するための基金創設の検討を進める。**

学生への奨学援助の充実や学生の国際交流活動の促進に資するための基金をつくった。予算減に対応した新たな基金をつくった。

○

継続

・ **企業人向けの研究会を企画実施していく。**

ソリューションセンター並びにイノベーションセンターにおいて、企業との研究会を開催し、企業と本校の信頼関係を深めることを通じて、製品開発、並びに共同研究の推進を図った。また、ソリューションセンターでは、企業人材教育のプログラムについて企画し、実施した。

○

継続

・ **会計検査院から有効活用されていないと指摘を受けた下記の不動産の譲渡に向けた手続きを進める。**

下堀団地（職員宿舎） 富山市下堀字上大道割 85 番 39 外 3 筆 596.33 m²
学校として処分することで決定した当該不動産について、平成 26 年 3 月 31 日付で高専機構理事長から処分の承認がなされた。富山市に下堀宿舎団地の土地等の購入について検討を依頼していたが、平成 27 年 3 月 31 日で購入の見合わせの回答があった。不動産の境界確定、土地の来歴調査は終了している。不動産の処分については引き続き検討中である。

○

継続